

会 務 報 告

(平成 22 年 8 月～平成 23 年 7 月)

◇**診断病理サマーフェスト**: サマーフェスト委員会のもとで、平成 22 年 8 月 28 日 (土) 29 日 (日)、京都テルサにて「第 4 回診断病理サマーフェスト」が開催された。247 名が参加し、うち 82% が病理、9% が放射線科、9% が皮膚科等からの参加であった。

◇**第 56 回秋期特別総会 (平成 22 年度)**: 産業医科大学を世話機関として橋本洋会長のもとで、平成 22 年 11 月 25 日 (木)～26 日 (金) の 2 日間、西日本総合展示場にて開催された。特別講演 1 題、学術研究賞演説 (A 演説) 7 題、B 演説 4 題、シンポジウム 2 件 10 題、病理診断シリーズ 2 題、International Poster Session の発表と討論が行われた。26 日には市民公開講座が、会期後には、IAP 病理学教育シンポジウム・スライドセミナーが開かれた。

特別講演 (1 題)

Osteoarthritis: New Insights in Pathogenesis

Kenneth P.H. Pritzker, M.D. (Mount Sinai Hospital, University of Toronto, Toronto, Canada)

学術研究賞演説 (A 演説) (7 題)

- (1) 伊倉 義弘 (大阪市立大学大学院医学研究科病理病態学): 動脈硬化症と非アルコール性脂肪性肝疾患発生病理との類似性: メタボリックシンドロームおよび血管病理の視点から
- (2) 小林 博也 (旭川医科大学病理学講座免疫病理分野): 癌免疫, アレルギー制御に関わる HLA クラス II 分子結合性ペプチド抗原の分子病理学的解析
- (3) 佐藤 保則 (金沢大学医薬保健学域医学系形態機能病理学): カロリ病の肝内胆管拡張と肝線維化機序の解明とその制御: 動物モデル PCK ラットを用いた検討
- (4) 樋田 京子 (北海道大学大学院歯学研究科口腔病態学講座・血管生物学教室): がん微小環境内の血管内皮の異常性
- (5) 平岡 伸介 (国立がん研究センター研究所病理部): 多段階発がん過程における抗腫瘍免疫機構に関する研究
- (6) 高橋 智 (名古屋市立大学大学院医学研究科共同研究教育センター・病理部): 前立腺発癌化学予防に対する実験的アプローチとそのメカニズムの解明
- (7) 藤井 誠志 (国立がん研究センター東病院臨床開発センター臨床腫瘍病理部 細胞動態室): ヒストン修飾蛋白によるがんの発生及び進展機構の解明

B 演説 (4 題)

- (1) 山内稚佐子 (国立がん研究センター東病院臨床開発センター臨床腫瘍病理部): MRI を用いたオートプシーイメージング: 8 症例の検討

- (2) 尾島 英知 (国立がん研究センター研究所病理部): 胆道領域癌進展様式の臨床病理学的意義に関する検討

- (3) 原田 博史 (市立堺病院病理・研究科): 唾液腺原発 Low-grade cribriform cystadenocarcinoma (LGCCA) の病理組織学的特徴

- (4) 本山 悌一 (山形大学医学部人体病理学教室): 新カルチノイド症候群の提唱とその民族的背景

シンポジウム (2 件 9 題)

1. 多様なイメージング手法が拓く新たな時空間形態学

- (1) 青葉 孝昭 (日本歯科大学): 腫瘍微小環境の多要素解析 — バーチャルスライド立体構築の応用
- (2) 伊藤 智雄 (神戸大学): 免疫二重染色の新展開 — 診断への応用に向けて
- (3) 浦野 泰照 (東京大学): 蛍光プローブの精密設計による in vivo がんイメージング
- (4) 今村 健志 (癌研究会癌研究所): 発光技術と蛍光技術を駆使した生体イメージング
- (5) 近江谷克裕 (産業技術総合研究所): 発光プローブで病理診断に挑む

2. 病理診断体制の現状と今後のあり方

- (1) 岸川 正大 (長崎病理診断科): 医療法人としての病理開業 — 実情と諸問題
- (2) 渡邊 一男 (福島病理研究所): 最少規模の病理開業 — その可能性と問題点
- (3) 野口 雅之 (筑波大学): つくばヒト組織診断センター (Tsukuba Human Tissue Diagnostic Center, THDC) の試み
- (4) 今村 正克 (NPO 法人 札幌診断病理学センター): NPO 法人による病理診断施設開業の成果と今後の課題
- (5) 羽山 忠良 (PCL Japan 病理・細胞診センター): 衛生検査所の立場から

癌取扱い規約の改訂ポイント (1 件 3 題)

1. 泌尿器科関連癌取扱い規約の改訂ポイント

- (1) 松寄 理 (君津中央病院): 腎癌取扱い規約改訂のポイント
- (2) 坂本 穆彦 (杏林大学): 前立腺癌取扱い規約改訂のポイント
- (3) 森永正二郎 (北里研究所病院): 腎盂・尿管・膀胱癌取扱い規約 (仮称) 改訂のポイント

病理診断シリーズ (2 題)

シリーズ 39 井藤 久雄 (鳥取大学医学部基盤病態医学講座器官病理): 臓器移植の病理

シリーズ 40 長谷川 匡（札幌医科大学医学部病理診断学）：軟部腫瘍の病理診断

○今後予定されている総会は、以下のとおりである。

- 1) 第 100 回（平成 23 年度）総会
世話機関：東京大学
会 長：深山正久教授
会 期：平成 23 年 4 月 28 日（木）～30 日（土）
会 場：パシフィコ横浜
- 2) 第 57 回（平成 23 年度）秋期特別総会
世話機関：昭和大学
会 長：諸星利男教授
会 期：平成 23 年 11 月 17 日（木）～18 日（金）
会 場：日本教育会館
- 3) 第 101 回（平成 24 年度）総会
世話機関：慶應義塾大学
会 長：岡田保典教授
会 期：平成 24 年 4 月 26 日（木）～28 日（土）
会 場：京王プラザホテル

◇上記特別総会に関連して開催された理事会および総会について：平成 22 年 11 月 24 日（第 56 回秋期特別総会の前日）に西日本総合展示場にて理事会を、11 月 25 日には同会場にて総会を開催した。これらの理事会、総会では、理事長報告、各種委員会委員長報告を行った。

理事会では、第 101 回（平成 24 年度）総会宿題報告担当者、平成 23 年度名誉会員有資格者、平成 22 年度上期新入会員、をそれぞれ協議して決定した。

総会では、平成 21 年度収支決算修正案、平成 23 年度事業計画並びに収支予算、選挙制度改革案、日本病理学会 100 周年記念事業、会費規程改定案、第 58 回（平成 24 年度）秋期特別総会会長および第 102 回（平成 25 年度）総会会長について協議し、それぞれ原案のとおり決定した。

◇**理事会**：平成 22 年 11 月 24 日（水）の理事会には青笹克之、向井 清、寺田信行、上田真喜子、佐藤昇志、深山正久、橋本洋、覚道健一、加藤良平、黒田 誠、松原 修、本山梯一、根本則道、岡田保典、笹野公伸、白石泰三、山口 朗、安井 弥、吉野 正（以上理事）真鍋俊明（以上監事）、菊川敦子、大藪いづみ、岩井理央（以上事務局）の各氏が出席し、青笹理事長の司会により議事を進行した。議事録に署名する出席者代表に笹野公伸、安井 弥両理事が指名された。

○報告事項

1. 理事長報告

(1) 選挙制度改革案について

2010 年 3 月 18 日常任理事会準備会、4 月 14 日常任理事会において、理事、理事長、監事候補の選挙制度につき意見交換の結果、選挙制度改革案を作成し、企画委員会、理事会に諮ることとした。候補者の選出は正会員の投票から学術評議員の投票によることとし、選出された候補者を総会において選任することとなった。

4 月 26 日の企画委員会および理事会においてこの改革案が承認された。

4 月 27 日の学術評議員会及び 4 月 28 日会員総会において案を説明し、学会ホームページに案を掲載して会員からの意見募集を 6 月から 7 月末まで行ったが、賛成意見のみで反対意見はなかった。

9 月 16 日の常任理事会で改革案が会員に理解されたと判断し、施行細則などの変更案の作成を行うことにした。10 月 15 日、11 月 12 日の常任理事会において定款施行細則案、学術評議員内規について意見交換し変更案を確定した。

本日の企画委員会において改革案と定款施行細則案について審議がされたが、この理事会でも後ほど審議する。

- (2) 来年度（平成 23 年度）の病理学会カンファレンス
世話人：中山淳信州大学教授
日 時：平成 23 年 8 月 5 日（金）・6 日（土）
会 場：ホテルブエナビスタ（長野県松本市）
テーマ：「病理学におけるグライコーム研究 — 神経・筋、感染症、がん、再生医学 —」
- (3) 100 周年記念事業
深山常任理事より後ほど説明する。
- (4) 名誉会員の推戴に関する書類として、理事会には経歴書を添付して諮ることとした。今秋には書式を検討することとした。総会には従来通り氏名のみを公表する。
- (5) 新学術評議員の推薦に関しては、提出された業績等を理事会で回覧することとした。
- (6) 専門医制評価・認定機構に青笹理事長が出席し、その報告があった。今後、この機構の活動については、十分な注意が必要であるとのことであった。
- (7) 「人材育成委員会」から要望のあった、病理学会ホームページでの求人広告掲載に制限を設けず市中病院以外からのものも受け付けることを了承した。
- (8) 来年の病理診断講習会時に、「医療安全講習会」を実施するが、これを病理専門医の更新資格にするべきかどうかについては、病理専門医制度運営委員会にて検討することとした。
- (9) 支部学術集会へ常任理事会メンバーが参加し意見交換を行うこととした。
- (10) 学術集会の座長候補者のリストを各支部長の推薦をもとに、佐藤学術委員長と白石支部選出学術委員会委員長が中心となり作成した。
- (11) 病理医不足解消について厚生労働省より具体的なデータの提出の依頼、病理学会の要望等に関する質問があった。今後、病理医の不足状況を多面的に示すデータをもとにした要望を行っていくためにアンケート調査をおこなうこととした。
- (12) 平成 22 年度病理専門医試験について、深山病理専門医制度運営委員長より報告があった。81 名が受験し 62 名

の合格で、合格率は75.6%であった。平成24年3月の細胞診講習会は東京大学を会場に、日本医大土屋眞一世話人のもとで行われる予定である。平成23年度試験は7月30日(土)・31日(日)に東京医科大学にて実施予定である。なお、平成23年度より研修医手帳使用者の受験がはじまり、また全ての受験者が剖検40体以上と剖検講習会受講に一元化される。

- (13) 認定施設のメーリングリストを作成することとし、その運用については常任理事会があたることとした。メールアドレスの収集については、認定施設へ「平成20年年報」を送付する際に調査票を同封し、約320施設より回答があった。
- (14) 文部科学省の業務等の実地検査が9月6日にあった。
- (15) 癌取り扱い規約に関する専門病理医へのアンケートを実施することとした。秋の「お知らせ」配布の際にアンケートを同封して配布し、ファックスにより回答を回収中である。
- (16) 公益法人化に向けて勉強会を再開することとした。メンバーは向井・寺田副理事長、上田財務委員長、佐々木毅、坂元享宇、福本学、池田栄二学術評議員。公益認定社団法人か、一般社団法人か、目指す方向を検討する。
- (17) 9月29日の学術委員会において、第102回総会時の宿題報告候補者選考が行われた。10名の応募があり、審議の結果3名を選考した。
- (18) 学術総会の活性化のために、学会員以外の研究者の春の学術総会への参加を促す方策について学術委員会を中心に検討中である。
- (19) 2010年9月29日、浙江大学において日中病理学交流協定の調印が行われた。
- (20) 各種セミナーの講演料や委員旅費について、規定を作るよう文部科学省の指導があり財務委員会で検討後、理事会に提案することとし、最終的には2月の理事会で報告することとした。

2. 各種委員会委員長報告

(1) 企画委員会 (向井 清委員長)

- ① 選挙制度改革案については協議事項
- ② 新公益法人制度移行について

12月より新ワーキンググループにて「公益法人」と「一般社団法人」それぞれのメリットデメリットを検証し、本学会としての方向性を来年4月総会で会員に提示する予定である。また平成25年11月が申請期限になるので、迅速な作業が必要であることが確認された。

(2) 広報委員会 (岡田保典委員長)

HPを年度内に刷新する予定で準備を行っており、財務委員会で予算が承認されている。施行業者は笹氣出版印刷を選定した。また会員専用サイト以外をUMINサーバーから民間のレンタルサーバーへ移行する予定である。

(3) 財務委員会 (上田真喜子委員長)

- ① 文科省の指導により、平成21年度収支決算の文言を一部修正する必要がでたため、その修正案を承認した。
 - ② 平成23年度事業計画並びに収支予算案を承認した。
 - ③ 来年度からの会費値下げに伴う規定改定案を承認した。
 - ④ 支部会計を本部会計に合算するよう文科省から指導があった。この件につき、各支部長とも相談しながら常任理事会で検討を行うこととした。
 - ⑤ 日英交流事業の「Japan-European Collaborative Award in Pathology」の採用が2件に増加したことに伴う予算増額を今回に限り承認した。
 - ⑥ 文科省の指導により各種セミナー等講演料規定を作成する必要があるため、担当理事と相談しながらすすめる。委員旅費規定も同様に策定する。例えば都内交通費の拠出なども検討している。
- (4) 学術委員会 (佐藤昇志委員長)
- 本委員会では学術集会活性化と若手研究者の育成について検討をしている。その一環として、「病理学会座長候補リスト」案を支部学術委員会と作成した。100回総会時より参考にさせていただきたい。また今後も同委員会、学術アドバイザーとともに持続的に改定を加えていく予定である。
- (5) 研究推進委員会 (安井 弥委員長)
- ① 第8回病理学会カンファレンスを2011年8月5日(木)～6日(金)に信州大学 中山 淳教授を世話人に松本市のホテルブエナビスタにて開催する。テーマは「病理学におけるグライコム研究—神経・筋、感染症、がん、再生医学—」である。
 - ② 第7回病理学会カンファレンスを2010年8月6日(金)～7日(土)に岡山大学松川昭博教授を世話人に岡山コンベンションセンターにて開催した。テーマは「炎症と免疫、癌」であった。
 - ③ カンファレンスの若手参加者を増やすために、委員会と連携した広報の充実、専門医資格更新単位の増加、専門医受験資格への組み込み、若手優秀発表者の顕彰等の提案があった。また実施に際しては十分な広報期間が必要であることも確認された。
- (6) 編集委員会 (代行 向井 清理事)
- ① Pathology International について
 - ・投稿数は昨年より減少し300編程度になる予想である。会員のからの積極的な投稿が望まれる。採択率は国内53%、海外26%であった。
 - ・現在1.521のImpact factorをあげるため、いくつかの試みを開始する。
 - ② 診断病理
 - ・投稿はこれまでどおり九州・沖縄支部が一番多いが、他支部からの投稿も増えている。
 - ・一般患者がインターネット上で自身の症例報告を閲覧

したという事例があった。会員制限をかけた閲覧等を学会として検討されたい。

③ 剖検輯報

- ・現在第 52 輯のデータベースのデータを収集している。
- ・科学研究費の申請を本年も行った。ここ数年獲得できていないが、国際性を求められているとの情報があり、今後の課題である。
- ・会員より個人情報の取り扱いの疑義があったが、充分に配慮されている旨委員長より回答した。

(7) 病理専門医制度運営委員会（深山正久委員長）

① 資格審査委員会報告

病理専門医資格更新は本年 426 名の申請があり、うち 15 名に書類不備があった。この 15 名には 12 月末までに書類の再提出を求めて、その最終審査を行う。不備の主なものは、学会参加証の提出が少ない、参加証の一部分の提出しかない、記名がされていないなどである。

② 施設審査委員会報告

- ・新規認定施設：9 件申請中 7 件は認定可となったが 2 件は剖検不足のため不可となった。
- ・新規登録施設：認定不可の 2 件を含む 35 件の申請があり、すべて登録可となった。

③ 日本専門医制評価・認定機構の件

- ・研修施設のサイトビジットの依頼があったので対応を考えたい。
- ・ワーキンググループをつくりこの団体の機構・歴史等概要をまとめて会員に報告できるようにし、今後どのように対応していくかは常任理事会・理事会で慎重に検討を続けることにした。

④ 来年度からの受験資格は剖検例が 50 例以上から 40 例以上に変更になり、剖検講習会の受講が必須となる。また研修手帳使用者の受験が開始される。

⑤ 研修手帳については、HP からダウンロードする現在の方式から学会が冊子体を作成し配布する方法への変更要望が強いので、常任理事会で検討することにした。

(8) 医療業務委員会（根本則道委員長）

① 社会保険委員会報告（委員長 稲山嘉明）

- ・平成 24 年度診療報酬改定にむけて、内保連へ提出する提案事項の順位付けを行った。
- ・要望の第 1 位は病理診断管理加算の新設であり、これは常勤病理医の重要性を適切に評価することが目的で、検体管理加算や画像診断管理加算との整合性をとりたい。
- ・第 2 位は病理診断料の見直しで、すべての独立診断毎に算定可能にしたい。
- ・第 3 位は医政局とも連携し、開業医を含めた全ての病理診断科で保険請求ルートを確立することである。
- ・第 4 位は細胞診断料の見直しで、婦人科細胞診断にも

適用可能にすることである。

- ・第 5 位は全割標本における加算、算定臓器数の見直しである。

② 病理診断体制専門委員会報告（委員長 佐々木毅）

- ・病理医不足について政府に働きかけるためにも基礎資料が必要であるため、この件につき大学・認定施設・登録施設に協力いただきアンケートを実施する予定である。
- ・教室プロローベや検査所での診断など、現在違法性が指摘されている「医療機関外での病理診断」について、それを解消するような方策をたてるために別途アンケートを実施することを考えている。

③ 剖検・病理技術委員会報告（委員長 柳井広之）

- 一人病理医をふくめた医療現場の過労が問題になっているため、医師数・技師数について、適正数算出式を検討し、提示したいとの報告があった。ただし、実際の医療現場の人員数とかけはなれないよう充分配慮をする。

④ 精度管理委員会報告（委員長 鬼島 宏）

- ・乳癌ワーキンググループ：乳癌の免疫染色（ER, PgR, HER2）に関する精度管理の実践。
- ・悪性腫瘍の遺伝子検査（EGFR 遺伝子, K-ras 遺伝子検査の実態把握（大腸癌, 肺癌）

⑤ コンサルテーション委員会報告（委員長 森谷卓也）

- ・平成 23-4 年度ボード改定の準備を開始する。
- ・平成 22 年度は上期の段階で 350 件以上の依頼があり、依頼数が増加している。

(9) 口腔病理専門医制度運営委員会（山口 朗委員長）

- ① 口腔病理専門医資格更新申請があり、審査の結果、3 名については書類不備のため再提出のち再審議することになった。
- ② 口腔病理専門医制度規程改訂案については後ほどお諮りする。
- ③ 平成 23 年度口腔専門医試験実施準備状況の報告があった。

(10) 教育委員会（本山悌一委員長）

- ① 新版の病理コア画像（HP）について、書籍化も検討されたが、この件への要望を把握できていない点、HP の完成度が不十分な面もあることから、当面見合わせることにした。
- ② このコア画像についてはその使われ方や要望について調査を行いたい。

(11) 国際交流委員会（笹野公伸委員長）

- ① 日独病理学会交流事業については、来年横浜での総会にドイツから参加がある。
- ② 日中交流事業について調印されたことにつき、その内容について下記の案が提示された。
- ・2011 年秋の中国病理学会に、日本側の数名が参加し

講演を行う。その際の旅費、滞在費は中国側が負担する。

- ・2012年春の日本病理学会総会には中国病理学会が選んだ中国側2-3名が参加する。その際の全員の旅費について20万円を限度に日本病理学会が支出する。
- ・その際の学術集会長が中国側の参加者の学会期間中の宿泊費をカバーしシンポジウム、ワークショップ他で話してもらう。又これらの招聘者の学会登録費は免除する。
- ・この案が承認されたら、中国側へ連絡し中国側での検討を進めることを要望する。

(12) 支部委員会（橋本 洋委員長）

- ① 各支部メーリングリストの充実が図られており、特にアクティブな会員のほとんどはメール登録されていることが報告された。学会本部での一括管理についても検討されたい旨意見がだされた。
- ② 「教室プローベ」の今後の対応について意見交換を行った。
- ③ 死因究明モデル事業については学会の使命の一つと考えており、その現状、今後について意見交換を行った。また理事長より、日本医療安全調査機構の動向について随時報告を行うことが約束された。
- ④ 支部会計の本部会計への合算について、上田真喜子財務委員長から説明を受けた。
この件については上田財務委員長を中心に常任理事会等で方策を検討していくことが確認された。

(13) 市民公開講座委員会（吉野 正委員長）

最終日開催市民公開講座でアンケートを実施する予定である。

(14) サマーフェスト委員会（松原 修委員長）

- ① 本年は京都で悪性リンパ腫をテーマに行われた。その際委員会も開催した。
- ② 来年は東京大学で脳腫瘍をテーマに行う予定である。
- ③ 毎年200名を超える参加者があり、黒字でもあるので、当面継続とし、むこう3年程度の計画をたてたい。
- ④ 交通の便や施設の面からも東京・京都交互開催を継続する。お世話になる京都大学の羽賀博典先生にはなんらかの形で委員会に加わっていただけるよう対応する。

(15) 病理診断講習会委員会（向井 清委員長）

委員会は開催されていないが、現在横浜総会開催分の準備をすすめている。

(16) 支部選出学術委員会（白石泰三委員長）

佐藤学術委員長の提示した座長リストの改定等を議題に明後日に委員会開催予定である。

(17) 死因究明委員会（黒田 誠委員長）

- ① 社団法人日本医療安全調査機構に黒田が担当理事として青笹理事長とともに出席している。

② 同上のワーキング会議が詳細を検討しており、深山理事が出席している。

③ 厚生労働省政務官直属の死因究明に資する死亡画像診断の検討委員会が開催され、年内に検討内容の更新がされるみこみである。学会としてその動向には充分注意する。

(18) 人材育成委員会（橋本 洋委員長）

明後日開催予定である。

(19) 男女共同参画委員会（加藤良平委員長）

明後日開催予定で、各支部の代表から意見を集約する予定である。

○協議事項は、以下のとおり、承認、決定した。

1. 平成21年度収支決算修正案に関する件

標記の件につき、上田真喜子財務委員長より案が提示され、説明があった。主な修正点は、文科省の指導により一部科目名等を変更したこと、100周年記念事業関係費の記載を明瞭化したことなどである。この修正案が満場一致で承認され、総会に提案されることになった。

2. 平成23年度事業計画並びに収支予算に関する件

① 上田真喜子財務委員長より、事業計画の説明があり原案が満場一致で承認された。

② 上田真喜子財務委員長より収支予算案について説明があった。

・収入案は、222,925千円、支出案は、210,150千円である。

・100周年記念事業の収入予算45,000千円のうち、33,000千円は来年度までに執行予定だが、残額12,000千円の扱いについては記念事業財務委員会、財務委員会、常任理事会等で、企画記念事業ネットワークセンターの運営形態や費用も含めて今後検討していく。

・オンラインオンリー化による英文誌制作費用の減額と、会費値下げ、及び事務局人員増員経費等で収支予算としてはちょうど相殺される形になっている。

・研修手帳配布については病理専門医制度運営委員会で年間数十万円程度の費用と試算しており、23年度からの執行についても財務委員会で検討する。

以上をふまえ協議の結果、原案が満場一致で承認され事業計画案、収支予算ともに総会に提案されることになった。

3. 選挙制度改革案の件（役員候補者選出方法の変更について）
向井清企画委員長より標記の件説明があった。

① 現在の選挙制度を「役員候補者を学術評議員の選挙により選出し、総会で選任する」という形に変更する。

② これに伴い定款施行細則の変更について原案の通り行い、軽微な文言修正の必要が生じた場合は常任理事会に一任する。

以上の件、協議の結果満場一致で承認され、総会に提案されることになった。

4. 100周年記念事業に関する件

深山100周年記念事業事務局より下記説明があった。

- ① 寄付については、会員のべ758名から20,600千円、16社と1個人から5,300千円、1社からのバーチャルスライドスキャナーの無償提供等をあわせるとほぼ目標額を達成した。
 - ② 病理情報ネットワークセンターは共同開発者UMINの母体である東京大学と総額9,717千円の正式契約を交わす予定である。オーバーヘッド、高熱費については東京大学の指定比率で計上してあり、問題ない。各理事で契約書を確認し、気づいた点があれば11月29日までに深山100周年記念事業事務局長に連絡されたい。最終的には深山100周年記念事業事務局長と青笹理事長に一任いただく。
 - ③ 記念誌発行準備は現在本文の査読段階にある。寄付者全員に冊子体を配布するため、1,000部を印刷し、会員にはDVDのみを配布する予定である。
 - ④ 式典及び祝賀パーティーについても準備が順調に進んでいる。
以上、報告を含めて満場一致で承認され、総会に提案されることになった。
5. 第58回（平成24年度）秋期特別総会会長選出の件
第58回（平成24年度）秋期特別総会会長に応募のあった黒田誠教授（藤田保健衛生大学）が常任理事会の議を経て推薦された。協議の結果、これを承認し総会へ提案することとした。
 6. 第102回（平成25年度）総会会長の選出の件
第102回（平成25年度）総会会長に応募のあった根本則道教授（日本大学）、佐藤昇志教授（札幌医科大学）の2名が常任理事会の議を経て推薦された。協議（投票）の結果佐藤昇志教授を選出し、総会へ提案することとした。
 7. 第101回（平成24年度）総会宿題報告担当者等の選出の件
佐藤昇志学術委員長より、先の学術委員会にて標記候補者として、上田真喜子（大阪市立大学）、澤田典均（札幌医科大学）、中村卓郎（癌研究会癌研究所）の3名が選出された旨報告された。協議の結果、満場一致でこれを承認した。
 8. 会費規程改定の件
上田真喜子財務委員長より、会費の値下げにともなう会費規程改定案について説明があった。年会費納入時期を該当年6月までとすること、終身会費を100千円に固定することもあわせて協議の結果満場一致でこの案が承認され、総会に提案することとした。ただし原案から終身会費納入学術評議員に「Pathology International」冊子体を実費配布する旨を記載した一文は削除することとした。
 9. 口腔病理専門医制度規程改訂の件
山口朗口腔病理専門医制度運営委員長より標記の件説明があり、歯科医師臨床研修制度の開始などともなう改定案

が提示された。研修手帳の使用など一部新設の内容も含め改定の主旨と概要について承認された。各理事確認の上、次回理事会で最終案を承認し、規定については4月の総会に諮ることとした。

10. 名誉会員の有資格者に関する件
平成23年度新名誉会員の有資格者名簿（186名）を満場一致で承認し、確認、推戴作業に入ることとした。
11. 新入会員の承認の件
青笹理事長より、平成22年度新入会員上期（平成21年4月1日～10月31日）129名の名簿が諮られ、協議の結果、満場一致で全員の入会が承認された。

◇会員総会：平成22年11月25日（木）に西日本総合展示場A会場にて、正会員3,633名のうち2,225名（うち委任状出席者1,974名）の出席を得て開催された。

議長に橋本 洋第56回秋期特別総会会長を選び議事を進行した。議事録署名人出席者代表として、内藤善哉（日本医科大学）、谷本昭英（鹿児島大学）の両会員が指名された。

○報告事項

1. 理事長報告 青笹克之理事長（常任理事会及び各種委員会報告）
 - (1) 選挙制度改革案について
2010年3月18日常任理事会準備会、4月14日常任理事会において、理事、理事長、監事候補の選挙制度につき意見交換の結果、選挙制度改革案を作成し、企画委員会、理事会に諮ることとした。候補者の選出は正会員の投票から学術評議員の投票によることとし、選出された候補者を総会において選任することとなった。
4月26日の企画委員会および理事会においてこの改革案が承認された。
4月27日の学術評議員会及び4月28日会員総会において案を説明し、学会ホームページに案を掲載して会員からの意見募集を6月から7月末まで行ったが、賛成意見のみで反対意見はなかった。
9月16日の常任理事会で改革案が会員に理解されたと判断し、施行細則などの変更案の作成を行うことにした。
10月15日、11月12日の常任理事会において定款施行細則案、学術評議員内規について意見交換し変更案を確定した。
11月24日の企画委員会、理事会において改革案と定款施行細則案についての審議を行い、これを承認した。
 - (2) 来年度（平成23年度）の病理学会カンファレンス（世話人：中山淳信州大学教授）は下記の通り実施予定である。
日 時：平成23年8月5日（金）・6日（土）
会 場：ホテルブエナビスタ（長野県松本市）
テーマ：「病理学におけるグライコーム研究 — 神経・筋、

感染症, がん, 再生医学 —」

- (3) 100周年記念事業
深山常任理事より後程説明する。
- (4) 専門医制評価・認定機構に青笹理事長が出席し, その報告があった。今後, この機構の活動については, 十分な注意が必要であるとのことであった。
- (5) 病理学会ホームページでの求人広告掲載について, 以前は市中病院からの依頼のみ掲載であったがこの制限を設けないこととした。
- (6) 学術集会の座長候補者のリストを各支部長の推薦をもとに, 佐藤学術委員長と白石支部選出学術委員会委員長が中心となり作成した。
- (7) 病理医不足解消について厚生労働省より具体的なデータの提出の依頼, 病理学会の要望の聴取, 更には質問があった。今後, 病理医の不足状況を多面的に示すデータをもとにした要望を行っていくためにアンケート調査を行うこととした。
- (8) 平成22年度病理専門医試験については81名が受験し62名の合格で, 合格率は75.6%であった。平成23年度試験は7月30日(土)・31日(日)に東京医科大学にて実施予定である。なお, 平成23年度より研修医手帳使用者の受験がはじまり, また全ての受験者が剖検40体以上と剖検講習会受講に一元化される。また平成24年3月の細胞診講習会は東京大学を会場に, 日本医大土屋眞一世話人のもとで行われる予定である。
- (9) 現在癌取り扱い規約に関する専門病理医へのアンケートを実施している。
- (10) 公益法人化に向けての検討を開始する。メンバーは向井, 寺田副理事長, 上田財務委員長, 佐々木毅, 坂元享宇, 福本学, 池田栄二学術評議員である。公益認定社団法人か, 一般社団法人か, 目指す方向を検討する。
- (11) 9月29日の学術委員会において, 第102回総会時の宿題報告候補者選考が行われた。10名の応募があり, 審議の結果上田真喜子, 澤田典均, 中村卓郎の3名を選考した。
- (12) 2010年9月29日, 浙江大学において日中病理学交流協定の調印が行われた。
- (13) 各種セミナーの講演料や委員旅費について, 規定を作るよう文部科学省の指導があり財務委員会で検討中である。
- (14) 企画委員会
 - ・選挙制度改革を本総会で審議して, 議決することを承認した。
 - ・定款施行細則などの変更についても承認された。
 - ・学術評議員の投票によって選出された役員候補者について, 総会で疑義が提示された場合の取扱い方法については常任理事会で検討する。
- (15) 財務委員会
 - ・平成21年度収支決算修正案が審議, 承認された。
 - ・日本病理学会100周年記念事業収支予算案が審議, 承認された。
 - ・平成23年度収支予算書(案)が審議, 承認された。
- (16) 編集委員会
 - ① Pathology International
 - ・2009年の採択率は, 国内53%, 海外24%であった。
 - ・2009年のインパクトファクターは, 1.521であった。
 - ② 剖検情報委員会
 - 2008年分の収録は約15,800件で, 減少が続いている。
- (17) 病理専門医制度運営委員会
 - ① 病理専門医資格審査は426名の専門医が資格更新申請, 15名の申請に不備があった。申請書類で目立った点は1)学会参加証の提出が少なかった, 2)参加証の名前のない部分のコピーの提出, 3)地方会などの参加証を記名なしに提出, の3点である。
 - ② 施設認定審査は新たな病理専門医研修認定施設の申請が9件あり, 7件が認定された。2件はいずれも剖検例が不足していたため登録施設となった。登録施設の申請は35件あり, 全施設が登録された。
- (18) 医療業務委員会
 - ① 社会保険委員会
 - 平成24年度の診療報酬改正に向けた提案事項の順位づけを行った。優先順位の第一位は病理診断管理加算の新設である。
 - ② 病理診断体制専門委員会
 - ・病理医不足に関する実態調査をアンケートの形で実施する予定。
 - ・いわゆる教室プロローベならびに衛生検査所における適正な病理診断(法的には違法)についての検討をすすめる。
 - ③ 精度管理委員会
 - 乳癌ワーキンググループ: 乳癌の免疫染色(ER, PgR, ER2)に関する精度管理を行う。
- (19) 口腔病理専門医制度運営委員会
 - 口腔病理専門医試験規定・細則変更の予定である。
- (20) 教育委員会
 - 「病理コア画像」のさらなる改良・充実と「病理情報管理ネットワークセンター」における学部教育部門の準備をする。
- (21) サマーフェスト委員会
 - ・第1回から第4回までの病理診断サマーフェストは盛況であり, 第1回婦人科213名, 第2回肺213名, 第3回骨軟部234名, 第4回リンパ腫247名の参加者があった。
 - ・来年以降, 3回程は継続する。参加者が200名を切った際は検討する。会場は京都と東京を交互に行う予定である。

- ・来年第5回は脳腫瘍がトピックであり、8月最後の週末に東大で行う。群馬大学平戸純子先生がモデレーターをつとめる。

② 新制度下法人への移行手続きの件

向井清企画委員長より現在特例民法法人である日本病理学会は平成25年11月末までに、新制度下の公益社団法人あるいは一般社団法人に移行する必要がある旨説明された。それぞれの特徴をふまえて検討し、移行手続きを進める予定である。

○協議事項は、以下のとおり、承認、決定した。

1. 平成21年度収支決算修正案の件

上田真喜子財務委員長より、文科省の指導により一部科目名等を変更したこと、100周年記念事業関係費の記載を明瞭化したことの説明があり、原案が満場一致で承認された。

2. 平成23年度事業計画並びに収支予算に関する件

上田真喜子財務委員長より、事業計画並びに収支予算について説明があった。収入案は222,925千円、支出案は、210,150千円である。原案が満場一致で承認された。

3. 選挙制度改革案の件（役員候補者選出方法の変更について）
向井清企画委員長より説明があり、現在の選挙制度を「役員候補者を学術評議員の選挙により選出し、総会で選任する」という形に変更することが満場一致で承認された。またこれにともなう定款施行細則の変更についても原案の通り承認された。

4. 100周年記念事業に関する件

深山正久100周年記念事業事務局長より下記の説明があった。

- ① 寄付については会員・企業からを合わせ、目標額をほぼ達成した。
- ② 企画記念事業として病理情報ネットワークセンターをUMINと共同開発の形で構築中である。
- ③ 記念誌を編纂しており、寄付者への贈呈と会員へのDVD配布を予定している。
- ④ 100回総会開催時に記念式典および祝賀パーティーを行う予定である。
以上の100周年記念事業計画およびその進捗状況が満場一致で承認された。

5. 第58回（平成24年度）秋期特別総会会長選出の件

青笹理事長より、第58回（平成24年度）秋期特別総会会長に応募のあった黒田誠教授（藤田保健衛生大学）が推薦された。協議の結果、満場一致で承認された。

6. 第102回（平成25年度）総会会長の選出の件

青笹理事長より、第102回（平成25年度）総会会長に応募のあった佐藤昇志教授（札幌医科大学）が推薦された。協議の結果、満場一致で承認された。

7. 会費規程改定案の件

上田真喜子財務委員長より、会費の値下げにともなう会費

規程改定案について説明があった。年会費納入時期を該当年6月までとすること、終身会費を100千円に固定することもあわせて協議の結果、満場一致でこの案が承認された。

○その他会場から、以下のとおりの発言があった。

1. 岸川正大学術評議員より以下の発言があった。昨年秋の総会で、長村義之前理事長より「全ての病理診断は医療機関で行わなくてはならない」との発言があったにもかかわらず、議事録から欠落している。この件を問い合わせてきたがまだ正式な回答がないため、再度確認をしたい。
この件について、まず根本則道医療業務委員長から、確かに受けているが、医療業務委員会の範疇を超える重要事項につき、青笹理事長が常任理事会を中心に検討中であるとの回答があった。また青笹理事長より、経緯をもう一度確認し、後日回答するとの発言があった。

◇平成21年度収支決算書修正案について：社団法人日本病理学会平成21年度収支決算書について、文部科学省の指導により、科目名の一部変更および100周年記念事業関係費の記載を明瞭化したため、修正案を提示し、原案のとおり決定した。

1) 収支計算書

平成21年4月1日から平成22年3月31日まで

(単位 円)

科 目	予算額	決算額	差 異	備 考
I. 収入の部				
1. 基本財産運用収入	50,000	12,019	△ 37,981	
受取利息収入	50,000	12,019	△ 37,981	
2. 会費収入	71,510,000	74,692,000	3,182,000	
正会員・学術評議員会費	29,000,000	29,212,000	212,000	
同終身会費	3,000,000	3,600,000	600,000	
同一般会員会費	27,000,000	29,323,000	2,323,000	
学生会員会費	10,000	0	△ 10,000	
賛助会員会費	150,000	150,000	0	
機関会員会費	350,000	335,000	△ 15,000	
病理専門医部会員会費	12,000,000	12,072,000	72,000	
3. 事業収入	122,700,000	135,440,483	12,740,483	
学術集会収入	80,000,000	94,330,511	14,330,511	
論文掲載料収入	900,000	1,160,828	260,828	
広告料収入	800,000	936,600	136,600	
刊行物発行収入	14,000,000	12,718,500	△ 1,281,500	
専門医制度収入	16,000,000	15,942,000	△ 58,000	
病理専門医部会収入	4,000,000	3,405,513	△ 594,487	
講習会等収入	4,500,000	4,421,000	△ 79,000	
賠償責任保険事務費収入	2,500,000	2,525,531	25,531	
4. 寄付金収入	0	3,680,000	3,680,000	
100周年記念事業寄付金収入	0	3,680,000	3,680,000	平成21年度より新規
5. 特定資産取崩収入	2,700,000	23,199,890	20,499,890	
学術医療振興基金取崩収入（終身会費分）	2,700,000	3,180,000	480,000	

学術医療振興基金取崩収入 (100周年記念事業用)	0	20,000,000	20,000,000	
100周年記念事業引当預金取崩収入	0	19,890	19,890	寄付金振込料 (受取人負担)
6. 雑収入	3,400,000	4,732,353	1,332,353	
受取利息収入	400,000	110,923	△ 289,077	
雑収入	3,000,000	4,621,430	1,621,430	
当期収入合計 (A)	200,360,000	241,756,745	41,396,745	
前期繰越収支差額	44,851,000	62,864,620	18,013,620	
収入合計 (B)	245,211,000	304,621,365	59,410,365	

(単位 円)

科 目	予算額	決算額	差 異	備 考
II. 支出の部				
1. 事業支出	161,000,000	175,947,579	14,947,579	
学術集会経費	84,500,000	93,061,189	8,561,189	
学会誌発行経費	29,000,000	27,317,770	△ 1,682,230	
会報発行経費	2,500,000	2,948,400	448,400	
剖検輯報刊行経費	10,500,000	10,921,737	421,737	
専門医制度運営経費	9,000,000	10,008,963	1,008,963	
病理専門医部会経費	8,000,000	8,429,997	429,997	
支部運営経費	6,500,000	6,500,000	0	
学術奨励等経費	4,500,000	3,174,705	△ 1,325,295	
講習会等経費	3,500,000	3,406,101	△ 93,899	
各種委員会経費	3,000,000	4,350,703	1,350,703	
事業人件費	0	5,828,014	5,828,014	管理費人件費より 一部を科目変更
2. 管理費	33,130,000	32,727,711	△ 402,289	
人件費	15,000,000	8,464,998	△ 6,535,002	一部を事業人件 費へ科目変更
福利厚生費	2,000,000	2,145,720	145,720	
交通費	300,000	270,000	△ 30,000	
通信運搬費	3,000,000	2,776,736	△ 223,264	
会議費	1,500,000	1,658,312	158,312	
印刷費	2,500,000	1,963,105	△ 536,895	
備品費	200,000	0	△ 200,000	
消耗品費	500,000	255,483	△ 244,517	
光熱費	230,000	241,254	11,254	
賃借料	2,700,000	3,958,243	1,258,243	OA 機器リース 料
諸会費	900,000	900,000	0	
補助金	200,000	0	△ 200,000	
修繕費	100,000	0	△ 100,000	
嘱託料	2,000,000	2,458,500	458,500	
租税公課 (消費税等) (法人税等)	1,500,000	1,088,500	△ 411,500	
雑費	500,000	599,843	99,843	法人税等納付
3. 特定預金支出	4,600,000	28,925,864	24,325,864	
退職給与引当預金取得支出	1,600,000	1,600,000	0	
学術医療振興基金取得支出	3,000,000	3,637,836	637,836	
国際交流基金取得支出	0	8,028	8,028	
100周年記念事業引当預金取得支出	0	23,680,000	23,680,000	基金取崩およ び寄付金
4. 予備費	1,000,000	0	△ 1,000,000	
当期支出合計 (C)	199,730,000	237,601,154	37,871,154	

当期収支差額 (A-C)	630,000	4,155,591	3,525,591	
次期繰越収支差額 (B-C)	45,481,000	67,020,211	21,539,211	

2) 貸借対照表

平成 22 年 3 月 31 日現在

(単位 円)

科 目	金 額		
I. 資産の部			
1. 流動資産			
現金・預金	134,776,877		
前払金	423,654		
未収金	518,970		
流動資産合計		135,719,501	
2. 固定資産			
基本財産			
基本財産	30,000,000		
基本財産合計	30,000,000		
その他の固定資産			
特定資産			
学術医療振興基金	98,990,518		
100周年記念事業引当預金	23,660,110		
国際交流基金	20,133,830		
退職給与引当預金	17,500,000		
特定資産合計	160,284,458		
什器備品	84,957		
保証金	930,000		
その他固定資産合計	161,299,415		
固定資産合計		191,299,415	
資産合計			327,018,916
II. 負債の部			
1. 流動負債			
前受金	51,823,000		
未払金	14,971,166		
預り金	1,905,124		
流動負債合計		68,699,290	
2. 固定負債			
退職給与引当金	17,500,000		
固定負債合計		17,500,000	
負債合計			86,199,290
III. 正味財産の部			
正味財産			240,819,626
(うち基本金)			(30,000,000)
(うち正味財産当期増加額)			(8,281,565)
負債及び正味財産合計			327,018,916

3) 正味財産増減計算書

平成 21 年 4 月 1 日から平成 22 年 3 月 31 日まで

(単位 円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 基本財産運用益	12,019	49,694	△ 37,675
基本財産受取利息	12,019	49,694	△ 37,675

② 受取会費	74,692,000	69,363,000	5,329,000
学術評議員会費	29,212,000	27,030,000	2,182,000
一般会員等会費	33,408,000	30,621,000	2,787,000
病理専門医部会費	12,072,000	11,712,000	360,000
③ 事業収益	135,440,483	143,736,738	△ 8,296,255
学術集会収入	94,330,511	100,509,196	△ 6,178,685
論文掲載料収入	1,160,828	986,414	174,414
広告料収入	936,600	726,600	210,000
刊行物発行収入	16,124,013	17,801,053	△ 1,677,040
専門医制度収入	15,942,000	16,472,000	△ 530,000
講習会等収入	4,421,000	4,752,000	△ 331,000
賠償保険事務費収入	2,525,531	2,489,475	36,056
④ 受取寄付金	3,680,000	0	3,680,000
寄付金収入	3,680,000	0	3,680,000
⑤ 雑収入	4,732,353	11,162,576	△ 6,430,223
受取利息	110,923	361,241	△ 250,318
著作権協会分配金	899,200	899,200	
科学技術振興事業団	542,640	727,976	△ 185,336
Pathol Int ロイヤリティ	2,510,240	3,309,138	△ 798,898
医中雑刊著作権使用料	25,620	25,620	
刊行物編集協力金	621,240	621,240	
雑収入	22,490	6,764,221	△ 6,741,731
経常収益計	218,556,855	224,312,008	△ 5,755,153
(2) 経常費用			
① 事業費			
学術集会費	93,061,189	99,161,098	△ 6,099,909
学会誌発行費	27,317,770	30,640,588	△ 3,322,818
会報発行費	2,948,400	3,090,675	△ 142,275
剖検報発行費	10,921,737	11,008,914	△ 87,177
専門医制度運営費	10,008,963	9,370,081	638,882
病理専門医部会費	8,429,997	8,838,396	△ 408,399
支部運営費	6,500,000	5,850,000	650,000
学術奨励等費	3,174,705	2,880,391	294,314
講習会等経費	3,406,101	4,578,372	△ 1,172,271
各種委員会費	4,350,703	3,172,120	1,178,583
事業人件費	5,828,014	5,814,132	13,882
事業費計	175,947,579	184,404,767	△ 8,457,188
② 管理費			
人件費	8,464,998	8,328,807	136,191
福利厚生費	2,145,720	2,078,514	67,206
交通費	270,000	275,000	△ 5,000
通信運搬費	2,776,736	2,722,620	54,116
会議費	1,658,312	1,261,629	396,683
印刷費	1,963,105	1,623,896	339,209
消耗品費	255,483	316,062	△ 60,579
光熱水道費	241,254	236,371	4,883
賃借料	3,958,243	2,523,728	1,434,515
諸会費	900,000	900,000	0
嘱託料	2,458,500	3,351,000	△ 892,500
租税公課	7,035,517	6,045,000	990,517
雑費	599,843	559,560	40,283
管理費計	32,727,711	30,222,187	2,505,524
経常費用計	208,675,290	214,626,954	△ 5,951,664
当期経常増減額	9,881,565	9,685,054	196,511
2 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0

(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
退職給与引当金繰入	1,600,000	1,600,000	0
税引前一般正味財産増減額	8,281,565	8,085,054	196,511
法人税、住民税及び事業税			0
当期一般正味財産増減額	8,281,565	8,085,054	196,511
一般正味財産期首残額	232,538,061	224,453,007	8,085,054
一般正味財産期末残額	240,819,626	232,538,061	8,281,565
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残額	0	0	0
指定正味財産期末残額	0	0	0
III 正味財産期末残高	240,819,626	232,538,061	8,281,565

4) 財産目録

平成 22 年 3 月 31 日現在

(単位 円)

科 目	金 額		
I. 資産の部			
1. 流動資産			
(1) 現金・預金			
現金 現金手許有高	152,107		
普通預金 みずほ銀行本郷支店	12,889,081		
普通預金 みずほ銀行本郷支店	15,086,543		
普通預金 みずほ銀行本郷支店	33,090,793		
普通預金 みずほ銀行本郷支店	60,471,548		
普通預金 三菱東京UFJ銀行本郷支店	140,622		
普通預金 みずほ銀行本郷支店	929,077		
普通預金 みずほ銀行本郷支店	361,659		
普通預金 みずほ銀行本郷支店	9,606,077		
定期預金 みずほ銀行本郷支店	131,945		
郵便振替貯金	1,917,425		
現金・預金合計	134,776,877		
(2) 前払金			
家賃	195,300		
会費自動振替手数料	228,354		
前払金合計	423,654		
(3) 未収金			
学会誌発行収入等	518,970		
流動資産合計		135,719,501	
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
基本財産	30,000,000		
(普通 三菱東京UFJ銀行本郷支店)			
基本財産合計	30,000,000		
(2) その他の固定資産			
特定資産			
学術医療振興基金	98,990,518		
(普通 三菱東京UFJ銀行春日町支店)			
100周年記念事業引当預金	23,660,110		
(郵便振替貯金)			
国際交流基金	20,133,830		
(普通・りそな銀行本郷支店)			
退職給与引当預金	17,500,000		
特定資産合計	160,284,458		
什器備品	84,957		

保証金	930,000		
その他固定資産合計	161,299,415		
固定資産合計		191,299,415	
資産合計			327,018,916

科 目	金 額		
II. 負債の部			
1. 流動負債			
(1) 前受金			
平成22年度会費・部会費等	51,823,000		
(2) 未払金			
英文誌印刷費等	2,785,000		
日病会誌印刷費等	5,511,599		
会報印刷費	95,550		
諸印刷費	67,200		
諸会費	500,000		
未払消費税等	400,000		
未払法人税等	5,611,817		
未払金合計	14,971,166		
(3) 預り金			
英文誌カラー印刷	1,745,000		
源泉所得税等	160,124		
預り金合計	1,905,124		
流動負債合計		68,699,290	
2. 固定負債			
(1) 退職給与引当金	17,500,000		
固定負債合計		17,500,000	
負債合計			86,199,290
正味財産			240,819,626

◇平成23年度事業計画ならびに収支予算について：社団法人日本病理学会平成23年度事業計画ならびに収支予算は、以下のとおりである。

○平成23年度事業計画

(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

[事業の概要]

I. 学術集会、研究会等の開催

1. 学術集会の開催

- (1) 第100回日本病理学会総会（於横浜・深山正久会長）
- (2) 第57回日本病理学会秋期特別総会（於東京・諸星利男会長）

2. 研究会、講習会等の開催

- (1) 第8回日本病理学会カンファレンス
- (2) 細胞診講習会
- (3) 病理診断講習会
- (4) 各支部における学術・研究集会
- (5) 第5回診断病理サマーフェスト

3. 公開講座・シンポジウムの開催

II. 学会誌、学術図書等の発行

- 1. 「日本病理学会会誌」の発行（第100巻第1～2号）
- 2. 「Pathology International」の発行（Vol. 61 4～12 Vol. 62 1～3）

- 3. 「診断病理」の発行（第28巻第2～4号、第29巻第1号）
- 4. 「日本病理学会会報」の発行（第279～290号）
- 5. 「病理専門医部会報」の発行（2011年 第2～4号、2012年 第1号）

III. 研究および調査

- 1. 「日本病理剖検輯報」の発行 第52輯（平成21年症例）
- 2. 剖検輯報編集方法の変更・充実
- 3. 剖検記録データベースの再構築

IV. 病理専門医等の資格認定

- 1. 病理専門医・口腔病理専門医の認定・試験の実施及び資格の更新
- 2. 病理専門医の広告
- 3. 研修手帳の実施
- 4. 研修施設の認定および資格の更新

V. 学術団体との協力、連絡

- 1. 学術団体等との会議共催および後援
- 2. 腫瘍取扱い規約等の改訂
- 3. 海外病理学会との交流
 - (1) 英国病理学会との会員の相互派遣、学術交流
 - (2) ドイツ病理学会との学術交流
 - (3) アジア各国との学術交流

VI. その他目的を達成するために必要な事業

- 1. 日本病理学賞（宿題報告）の授与
- 2. 日本病理学会学術奨励賞の授与
- 3. 日本病理学会学術研究賞（A演説）の授与
- 4. 病理学卒前教育の充実
- 5. 病理診断コンサルテーションシステムの充実
- 6. インターネットホームページの充実
- 7. 医師賠償責任保険加入取扱いの実施
- 8. 病理専門医制度運営、医療業務、学術・研究等の各種委員会の開催
- 9. 日本病理学会100周年記念事業実施

○平成23年度収支予算

(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

(単位 円)

科 目	予 算 額	前年度予算額	増 減	備 考
I. 収入の部				
1. 基本財産運用収入	15,000	50,000	△ 35,000	
受取利息収入	15,000	50,000	△ 35,000	
2. 会費収入	60,630,000	70,560,000	△ 9,930,000	
学術評議員会費収入	22,400,000	28,000,000	△ 5,600,000	会費 20,000 → 16,000
終身会費収入	3,000,000	3,000,000	0	
一般会員会費収入	22,740,000	27,000,000	△ 4,260,000	会費 15,000 → 13,000
学生会員会費収入	10,000	10,000	0	
賛助会員会費収入	150,000	150,000	0	
機関会員会費収入	330,000	400,000	△ 70,000	
病理専門医部会費収入	12,000,000	12,000,000	0	

3. 事業収入	131,700,000	132,700,000	△ 1,000,000	
学術集会収入	90,000,000	90,000,000	0	
論文掲載料収入	900,000	900,000	0	
広告料収入	800,000	800,000	0	
刊行物発行収入	13,000,000	14,000,000	△ 1,000,000	
専門医制度収入	16,000,000	16,000,000	0	
病理専門医部会収入	4,000,000	4,000,000	0	
講習会等収入	4,500,000	4,500,000	0	
賠償責任保険事務費収入	2,500,000	2,500,000	0	
4. 特定資産取崩収入	28,480,000	3,400,000	25,080,000	
学術医療振興基金取崩収入	3,480,000	3,400,000	80,000	
100周年記念事業引当預金取崩収入	25,000,000	0	25,000,000	100周年記念事業寄付繰越
5. 雑収入	2,100,000	4,400,000	△ 2,300,000	
受取利息収入	100,000	400,000	△ 300,000	
雑収入	2,000,000	4,000,000	△ 2,000,000	PINロイヤリティ無
当期収入合計 (A)	222,925,000	211,110,000	11,815,000	
前期繰越収支差額	53,961,000	45,481,000	8,480,000	
収入合計 (B)	276,886,000	256,591,000	20,295,000	

(法人税等)	3,000,000	0	3,000,000	事業費支出より
雑費	500,000	500,000	0	
3. 特定預金支出	4,600,000	4,600,000	0	
退職給与引当預金取得支出	1,600,000	1,600,000	0	
学術医療振興基金等取得支出	3,000,000	3,000,000	0	
4. 予備費	1,000,000	3,000,000	△ 2,000,000	
当期支出合計 (C)	210,150,000	202,630,000	7,520,000	
当期収支差額 (A-C)	12,775,000	8,480,000	4,295,000	
次期繰越収支差額 (B-C)	66,736,000	53,961,000	12,775,000	

◇第100回総会（平成23年度）：東京大学を世話機関として深山正久会長、宮園浩平副会長のもとで、平成23年4月28日（木）～4月30日（土）の3日間、パシフィコ横浜で開催された。宿題報告は、岡安 勲名誉教授（北里大学）による「潰瘍性大腸炎の発症・持続とその大腸発癌・進展機序—慢性臓器炎—発癌系のモデルとして—」、宮園浩平教授（東京大学）による「がんの浸潤・転移のシグナルネットワーク」の2題であった。

特別企画として「病理学の研究 未来に向かっての提言」があり、北川知行先生（癌研名誉所長）が「形態学と総合性の豊かな未来」、恒吉正澄先生（九州大学）が「古くて新しい人体病理学—診断病理学の煌き」、岡田保典教授（慶應義塾大学）が「統括病理学」の時代における病理学研究の講演があった。

特別講演は、森 茂郎先生（100周年記念誌刊行委員長）による「日本病理学会の100年：その役割の変遷」、教育講演は、月田早智子先生（大阪大学）による「上皮細胞シートによる生体制御システムの構築とその異常による病態」、押村光雄先生（鳥取大学）による「ヒト人工染色体の医学・薬学への応用」、Dr. Andrew H. Wyllie（Cambridge大学）による「DNA Copy Numbering in Colorectal Cancer: New Results and New Conclusions」、審良静男教授による「自然免疫と病原体認識」、門脇孝教授による「糖尿病と病理」、Dr. Ralph H. Hruban（Johns Hopkins大学）による「Pancreas Pathology in the Era of Whole Genome Sequencing」、Dr. Thomas Kirchner（LMU）による「Stem cells in colon and other cancers」の7題が行なわれた。

また、深山正久教授（東京大学）による会長講演「人体病理学の展開—次の100年をつくるために—」も行われた。一般演題は1,085題が発表された。

このほかシンポジウム5件、ワークショップ16件、診断ワークショップ7件、オープンフォーラム6件、ランチオンセミナー20件、コンパニオンミーティング10件、若手育成用セミナー4件の発表と討論があった。学生ポスター発表、および学術奨励賞受賞者ポスター発表も行われた。

また、系統的・剖検病理診断講習会（分子病理学キーワード、剖検講習会、異常死、病理検体の研究への応用、医療安全）および臓器別病理診断講習会（肝臓、リンパ、乳管、中枢神経・脳腫瘍、消化管、呼吸器）が開かれた。

(単位 円)

科 目	予算額	前年度予算額	増 減	備 考
II. 支出の部				
1. 事業費	172,500,000	166,500,000	6,000,000	
学術集会経費	89,000,000	89,500,000	△ 500,000	
学会誌発行費経費	15,000,000	15,000,000	0	
会報等発行経費	2,000,000	3,000,000	△ 1,000,000	会報PDF「お知らせ」郵送
剖検輯報刊行経費	11,000,000	11,000,000	0	
専門医制度運営費経費	10,000,000	9,000,000	1,000,000	
病理専門医部会経費	8,000,000	8,000,000	0	
支部運営経費	6,500,000	6,500,000	0	
学術奨励等経費	3,000,000	3,500,000	△ 500,000	
講習会等経費	3,500,000	4,500,000	△ 1,000,000	
各種委員会経費	3,500,000	3,500,000	0	
事業人件費	8,000,000	8,000,000	0	
100周年記念事業経費	13,000,000	0	13,000,000	新規
租税公課（法人税等）	0	5,000,000	△ 5,000,000	管理費支出へ
2. 管理費	32,050,000	28,530,000	3,520,000	
人件費	10,000,000	10,000,000	0	
福利厚生費	2,500,000	2,500,000	0	
交通費	400,000	400,000	0	
通信運搬費	2,700,000	3,000,000	△ 300,000	
会議費	2,000,000	2,000,000	0	
印刷費	2,000,000	2,500,000	△ 500,000	
備品費	200,000	200,000	0	
消耗品費	300,000	500,000	△ 200,000	
光熱費	250,000	230,000	20,000	
賃借料	4,000,000	2,700,000	1,300,000	OA機器リース料含む
諸会費	900,000	900,000	0	
修繕費	100,000	100,000	0	
嘱託料	2,500,000	2,500,000	0	
租税公課（消費税等）	700,000	500,000	200,000	

○今後予定されている総会は以下のとおりである。

- 1) 第57回(平成23年度)秋期特別総会
世話機関：昭和大学
会 長：諸星利男教授
会 期：平成23年11月17日(木)～18日(金)
会 場：日本教育会館
- 2) 第101回(平成24年度)総会
世話機関：慶應義塾大学
会 長：岡田保典教授
会 期：平成24年4月26日(木)～28日(土)
会 場：京王プラザホテル
- 3) 第58回(平成24年度)秋期特別総会
世話機関：藤田保健衛生大学
会 長：黒田 誠教授
会 期：平成24年11月22日(木)～23日(金)
会 場：ウインク愛知(名古屋)
- 4) 第102回(平成25年度)総会
世話機関：札幌医科大学
会 長：佐藤昇志教授
会 期：平成25年6月6日(木)～8日(土)
会 場：ロイトン札幌他

◇上記総会に関連して開催された理事会、学術評議員会等ならびに総会について：平成23年3月28日に大阪千里ライフサイエンスセンター、および4月27日にパシフィコ横浜にて理事会が開催され、4月29日には学術評議員会・病理専門医部会、4月30日には総会が開かれた。総会の席上で、第12回(平成22年度)学術奨励賞授賞式が行われた。また、4月29日には、日本病理学会100周年記念式典が挙行された。

これらの理事会、学術評議員会および総会では、理事長、委員会委員長の報告があった。協議事項としては、総会においては平成22年度事業報告並びに収支決算報告、新名誉会員28名の推戴者並びに新学術評議員76名の候補者、会費値下げ案、口腔病理専門医制度規程改訂案、学術評議員定年制導入に関する件、東日本大震災被災者支援の件が諮られ、それぞれ理事会承認の原案どおり決定した。また理事会では、総会における役員選任方法についての取り決め、100周年記念事業に関する件、第100回総会開催の件、会費値下げ案に関する件、各種委員会委員の選出、平成22年度下期の新入会員125名(年度合計267名)が、協議の結果それぞれ原案のとおり承認された。

◇春期理事会：平成23年3月28日(月)に千里ライフサイエンスセンター会議室503号にて春期理事会のほか学術委員会等が開催された。理事会には青笹克之、寺田信行、上田真喜子、佐藤昇志、覚道健一、加藤良平、黒田 誠、松原 修、本山悌一、根本則道、白石泰三(以上理事)真鍋俊明(監事)、菊川敦子(事務局)の各氏が出席した。欠席理事7名のうち橋本 洋、岡田保典、笹野公伸、安井 弥、吉野 正、山口 朗の6理事

より委任状が提出された。

青笹理事長の司会により議事を進行した。議事録署名人には出席者代表として白石泰三、加藤 良平両理事が指名された。

○報告事項

1. 理事長報告

(1) 選挙制度改革における役員選任方法について

学術評議員により選出された役員候補者の総会での役員選任は、以下に示す理事会の申し合わせに則り、行う事が報告され、承認された。このための役員選出指針の改定が承認された。総会での役員選任の申し合わせ；①学術評議員の投票による得票上位者からなる候補者について承認を求める。②異議がなければすぐに投票し、選任する。③特定の候補者についての意義が提出された場合は、その異議について審議するかどうかを諮る。審議しないということになれば、当初の候補者のみで選任投票を行う。④審議となった場合は賛否の討論を行い投票する。異議を認めない場合は、当初の候補者のみで選任投票を行う。⑤異議が認められてその候補者が役員として不適当であるとされた場合、不適当であるとされた候補者を除いて、次点候補者を繰り上げて承認を求める。

(2) 癌取り扱い規約に関して

現在多くの『癌取り扱い規約』が出版されているが、これに対する病理学会の関与は、様々であり、又病理学会の印税、出版経費等に対する対応も一様でない現状を確認した事が報告された。このために、学会としての方針等を検討するため向井万起委員長を中心とした『癌取り扱い規約委員会』を拡大強化する事及び拡大『癌取り扱い規約委員会』の委員構成が報告され、これが承認された。現在共同編集を行っている泌尿器科学会、産婦人科学会、脳神経外科学会に対しては、頁数に按分した担当学会への印税の支払い等を提案している事及びその具体的内容が報告された。又、本学会が現在関与していない45冊の『癌取り扱い規約』においても、同様の取り決めを行うべく準備をする予定である事が報告され、これらが承認された。すべての癌取り扱い規約の記載法を統一するために、各々の癌取り扱い規約作成に、共通して関与する委員が必要ではないかとの意見がだされた。

(3) 国際交流委員会に設置される『日中交流ワーキンググループ』のメンバーが、青笹理事長、笹野国際交流委員長、松原国際交流委員、蓮井学術評議員、範江林学術評議員、森井学術評議員に決定したことが報告された。

(4) 故遠城寺名誉会員の御夫人からの寄付を受けることとし、上田財務委員長により作成された書式を承認した事が報告された。

(5) 第57回秋季特別総会前日に諸星会長により企画されたサテライトシンポジウムが承認されたことが報告された。

- (6) 研究推進委員会からの提案について
優秀ポスター発表者の顕彰の提案は承認された事、病理学会カンファレンスの生涯学習単位を10単位に増加し、それを専門医受験資格とする提案は、病理専門制度運営委員会に検討を依頼する事が報告された。修士課程在籍会員の会費値下げの提案は財務委員会で検討されたことが報告された。
- (7) 年会費未納者の取り扱いについて寺田副理事長を中心に検討されている事が報告された。
- (8) 佐藤学術委員長から提示された演題応募資格改定案（学術委員会報告参照）を学術委員会、理事会での承認を得た後、第101回総会から適用する事が報告された。
- (9) 座長候補者参考リストに関して
平成22年度版のリスト並びに利用規程に関する報告がされた（学術委員会報告参照）。
- (10) 100周年記念事業（病理情報管理ネットワークセンター）について
準備状況、運営委員会設立に関する報告がされた（深山理事報告参照）。
- (11) 学術評議員制度に関して
現役の学術評議員に学会の運営を委ねるようにするために、65歳定年制を導入すること、及び定年制が導入された場合は、65歳以上の会員は、名誉会委員、終身会員、一般会員のいずれかになる事の説明があった。会員の定年制導入に関する意見募集をホームページに掲載する事が承認された。寄せられた会員の意見も参考に、23年度総会で学術評議員定年制を諮ることになった。
- (12) 倫理委員会から提出された『医学研究のCOIマネージメントに関する指針案』の日本語版が常任理事会で承認され、英語版も作成されている事が報告された。この指針案を理事会で承認した。
- (13) 昨年12月、厚生労働省医政局への乳癌、胃癌のHER2検査の保険償還の要望書提出に青笹理事長が出席した際、この検査に関する病理学会自身のガイドラインがない事を指摘された事が報告された。この点での改善の必要性が報告された。この報告に対して、医療業務委員会委員長根本則道理事から、現在鬼島宏精度管理委員会委員長が病理学会の乳癌のHER2検査のガイドラインの作成作業を行っている事が述べられた。引き続き、胃癌についても作成する事とした。
- (14) 日本病理専門医制評価・認定機構に関して
日本病理学会は、基本領域学会のメンバーとして、この機構に既に組み込まれている（青笹理事長が、平成23年2月の機構の委員会で、確認した）事及び将来この機構が現在病理専門医制度運営委員会の行っている専門医認定を行うようになる事が報告された。更に、これは会員にとり非常に重要な内容であるので、総会で会員に十分この事について説明するとともに、随時情報を会員に提供する必要がある事が報告され、これが承認された。なお深山病理専門医制度運営委員会委員長から、機構の成り立ちに関する説明があった。
- (15) 学術評議員資格の基準の検討のために、向井副理事長を中心としたワーキンググループを立ち上げ、向井案を参考にして基準を作成する事及び平成23年度秋季総会で基準案を提示できる様に検討を進める事が報告された。
- (16) 上田財務委員長より2月14日の財務委員会の報告及びその他の報告が常任理事会でなされ、承認された事が報告された（詳細は、上田財務委員長の報告を参照）。
- (17) 男女共同参画委員会から依頼された『女性病理ネットワークの構築について』を常任理事会で承認した事及びホームページ掲載に関する要望を広報委員会に依頼する事が報告された。
- (18) 日本病理学会は平成25年11月末迄に新制度に於ける公益社団法人あるいは一般社団法人に移行しなければならない。検討WGを立ち上げ検討した結果、一般社団法人での申請準備を進めることとした事が報告された。詳細は企画委員会報告で報告される。
- ## 2. 各種委員長報告
- (1) 企画委員会（委員長に代わり寺田委員が報告）
- ① 総会における役員選任方法についての取り決めについて
理事長報告時に、既に承認されている。
 - ② 会費未納会員の取り扱いについて
2年を越えて会費を滞納し（3年間の会費滞納）、納入催告に応じない場合、定款で定められている手順に従い、理事会で除名を承認後、総会に諮り、滞納者を除名する事が承認された。なお、理事会での承認前に、会費の3年滞納者の支部毎のリストを、各支部に送り、各支部で可能な範囲で、滞納者に除名となる事を予め通知する事も承認された。
会費を一年間滞納し、納入の催告に応じない場合、総会の案内状も滞納者本人に届いているか不明であり、実質上会員として見なし難い。従来から、慣例で、この様な会員数を除いた会員数を総会での議決権を持つ会員数と見なしてきたが、本理事会でこの慣例を承認した。なお、『総会での議決権を持つ会員数は、一年間会費を滞納し、納入の催告に応じない会員数を除外した会員数とする』ことを理事会の申し合わせとして承認した。
 - ③ 学術評議員65歳定年制導入について
理事長報告（11）で報告された内容が報告された。会員の定年制導入に関する意見募集を、ホームページに掲載する事が本理事会で承認されたことにもない、早急に意見募集をホームページにのせ、意見を募る事になった。

- ④ 学術評議員資格検討委員会について
学術評議員の資格の基準を検討するためのワーキンググループを設立する事及びその委員には、理事委員5名（向井委員長他寺田、深山、岡田、白石理事）、口腔病理担当理事委員（山口理事）、大学・研究所所属委員3名（野口、八尾、落合先生）、一般病院委員（船田、大橋、堀内先生）3名の就任を常任理事会で承認した事が報告された。資格基準に関しては、向井委員長の試案を参考に検討する事が報告された。
- ⑤ 公益社団法人問題に関して
公益社団法人に関するワーキンググループ（委員長は向井副理事長、委員は、上田財務委員長、寺田副理事長、福本先生、池田先生、坂元先生、佐々木先生）は、平成22年12月、平成23年1月、2月の3回開催され、青笹理事長が毎回参加された事、顧問会計士の木村先生は第2回目の会合に参加された事が報告された。その後、検討内容に関する簡単な報告がされた。その報告の要旨は、1) 公益社団法人、一般社団法人いずれを選択しても、法人の運営の体制は、現体制を継続、維持する事が常任理事会で合意されている、2) 議論の対象は、財務上の得失、法人の事務、会計処理等に関する事務量と費用等であったが、公益差団法人、一般社団法人となった場合の得失の評価は困難である、3) 公益社団法人となっても、現在の病理学会の財政運営を基に考えるとそれほど大きな利益はない、4) 公益社団法人になった場合は、監督官庁の指導に沿う様に最大限の努力を払う必要があり費用の増大が見込まれる、5) 一般社団法人を選択した後も、公益社団法人になることはできる等であった。この様な議論を基に、病理学会は、一般社団法人を選択し、その後公益社団法人制度の運用実績を参考にして、公益社団法人の方が明らかに病理学会の財政上、運営上すぐれていると判断された時、公益社団法人化を考えることになった事が報告された。この選択は、本理事会で承認されたので、今後寺田副理事長が中心となり一般社団法人化の準備を行う事になった。なお、循環器病学会、泌尿器科学会、血液学会、肝臓学会を含む多くの内科関連学会は、一般社団法人を選択する事、癌学会は、公益社団法人にはならない事が報告された。
- (2) 財務委員会（上田真喜子委員長）
- ① 役員等旅費取り扱い細則についての説明があり、これが承認された。なお、役員等は、役員、委員会委員、事務局員を含む事が確認された。
- ② 細胞診講習会、病理診断サマーフェスト、病理学会カンファレンス、診断講習会での講演料に関する規程についての説明があり、これが承認された。
- ③ 博士課程大学院生、初期研修医の会費を8,000円とし、大学院修士課程学生も学生会員と同等とし、会費を5,000円とする事及びそのための定款施行細則、会費規程の改定が報告され、承認された。更に、専門医部会費（現在6,000円）の値下げを財務委員会で検討することが提案され、これが認められた。
- ④ 支部の会計と本部の会計の合算に関する3月9日の支部会議について報告された。支部会議には、橋本支部会委員長、寺田近畿支部長、上田財務委員長、青笹理事長が出席し、上田財務委員長から提示された支部会計の本部会計への合算に関する今後のプロセス案が了承された事が報告された。
- (3) 学術委員会（佐藤昇志委員長）
- ① 春期学術集会への演題応募資格の規定を、『一般演題及び、一般示説の応募者の筆頭者は日本病理学会の会員に限ります。』に変える事を報告し、これが了承された。
- ② 座長候補参考リスト（平成22年度版）が提示された。このリストは、本人の承諾を必要としない推薦リストであり、あくまでも参考リストであること、候補者のうち30、40歳代は約40%を占め、若手研究者の登用の目的にもなっていること、リストの更新、記載事項の充実を継続して行う等の報告があった。
- ③ 「座長候補参考リストを利用できる者の範囲、利用申請先とそれを審議する機関、更にリストファイルの管理は事務局が行う事」を規定している座長候補参考リスト利用規程案が提示され、承認された。
- ④ 年次改定作業内容、担当委員会、改定作業の方法等が決められた座長候補参考リスト改定作業スケジュール案が提示され、承認された。
- ⑤ PINのimpact factorを上げるために、理事は3年間に1編PINに投稿する事を義務づける案が平成22年度11月の学術委員会で提案され、今後PINの担当委員会である観光委員会とも協議することが認められた、との報告がされた。この件に関しては、次回理事会で意見交換を行う事になった。
- (4) 病理専門医制度運営委員会（深山正久委員長）
- ① 日本病理学会で研修手帳を作成し、病理専門医研修者に配布する件について報告され、承認された。
- ② 小倉医療センターより認定施設登録申請があったが、事務局での申請書の受け取りが確認できなかったため、再度提出された申請書を持ち回りの施設審査委員会で承認したとの報告がなされた。
- ③ 本年3月12日開催の細胞診講習会には、93人の申込者のうち79名は参加できたが、東日本大震災の影響により14名（8名は今年の病理専門医受験者）は欠席となった事が黒田理事から報告された。この14名に対して、補講を行うことが承認された。
- (5) 医療業務委員会（根本則道委員長）
- ① 病理学会の24年度診療報酬改定に向けての診療報酬、

医療技術評価提案に関する報告が行われた。

- ② 乳癌のHER2検査の病理学会のガイドラインは、鬼島宏精度管理委員会委員長が中心となり作成している事が報告された。
 - ③ 東北関東大震災の影響で、コンサルテーション業務が円滑に行えないため、森谷卓也コンサルテーション委員会委員長が、しばらくの間日本病理学会のコンサルテーション業務を休止したい旨の申し入れがあった事が報告され、これを承認した。
- (6) 病理診断サマーフェスト委員会（松原修委員長）
脳腫瘍をテーマにしたサマーフェスト開催を計画中であることが報告された。

○協議事項

1. 第57回（平成23年度）秋期特別総会学術研究賞演説（A演説）・B演説担当者選出の件
佐藤学術委員長から、A演説は21名の応募中9名が選ばれ、B演説は、5名の応募中2名が選ばれた事が報告され、これを承認した。
2. 第12回（平成22年度）学術奨励賞受賞者の選出の件
松原修学術奨励賞選考委員長から、14名の応募者の中から7名が選ばれた事が報告され、これを承認した。
3. 平成23年度新名誉会員候補者名簿に関する件
平事務局から平成23年度の名誉会員推戴アンケート結果が報告され、これを承認した。
4. 平成23年度新学術評議員候補者名簿に関する件
事務局から平成23年度新学術評議員候補者名簿が報告され、これを承認した。
5. 新入会員承認の件
平成22年11月1日から平成23年2月末日迄の新入会者の一覧が提示され、これを承認した。
6. 平成23年度各種委員会委員選出の件
各種委員会委員の任期満了に伴う新委員の候補者一覧が提示され、これを承認した。
7. 口腔病理専門医制度規定改定の件（口腔病理専門医制度運営委員会委員長代理、豊澤悟委員）口腔病理専門医制度運営委員会で作成した口腔病理専門医制度規定等の改定案・新設案の改定、新設項目が報告された。改定・新設案を承認した。
8. 第100回（平成23年度）総会に付議する事項に関する件
総会議事次第案が報告され、承認された。
9. 佐野先生ご逝去に伴う監事後任の件
監事は、選挙によりその候補者が選出され、総会で選任される役員であるので、監事の佐野先生のご逝去に伴う監事の欠員は、補充しない事が提案され、承認された。
10. その他
震災関連問題の協議
 - ① 第100回総会について
深山正久会長から、第100回総会の開催に関する対応策

として3案が提案された。A案は、プログラムを縮小し、予定の会期（4月28日～30日）に行う案である。A案でのプログラム変更点は、1）夜間の講演を避け、遅くとも午後6時30分迄にプログラムを終了する、2）東大構内で予定していたコンパニオンミーティング、市民公開講座を中止する、3）100周年記念事業では、式典のみを開催し、記念講演会、祝賀会を中止する、4）緊急特別企画として市民公開講座（放射線障害の知識と対策）を4月29日に行う、等である。なお、不測の事態に備え、8月国立京都国際会館での開催も考慮にいれ、その準備も行う。B案は、8月に国立京都国際会館で3日間の予定で春期総会を開催する案である。C案は、総会も100周年記念事業も中止する案である。

3案について、協議した結果、A案を選択する事を出席理事全員一致で決定した。又100周年記念事業に関しては、東北関東大震災支援プログラム（1、犠牲者への黙禱と震災支援の表明、2、祝賀会に予定していた費用を震災者の義捐金として寄付する、3、震災のため学会に参加できない会員に教育講演、診断講習会内容を収録したDVDを配布する等）を追加する事を承認した。この決定の内容を日本病理学会ホームページ及び第100回総会のホームページに掲載し、速やかに会員に知らせる事とした。

- ② 東北関東大震災の義捐金に関して
青笹理事長から、病理学会員に義捐金を募る事が提案された。他に、病理学会から資金を拠出し義捐金を送る案又被災地の東北支部に病理学会から援助を行う案が提案された。これらの案に関しては、常任理事会で検討する事とした。
- ③ 本年の病理専門医試験は、東京で実施の予定であったが、電力事情等により関東地区以外の会場での開催とした。会場の変更に関しては、深山病理専門医制度運営委員長及び黒田理事が担当し4月上旬迄に会場を決定する事とした。本年東京で開催予定であった病理診断サマーフェストも、開催地を京都に変更する事とし、松原修病理診断サマーフェスト委員長と委員が協議して、対処する事とした。
- ④ 黒田誠死因究明委員会委員長から東日本大震災での犠牲者の検死はほぼ終了しているが、法医学会等からの協力依頼がある時は、協力を御願しいたい旨の要望があり、これが了承された。

◇理事会：平成23年4月27日（水）パシフィコ横浜会議センターにて理事会および各種委員会が開催された。理事会には青笹克之、向井 清、寺田信行、上田真喜子、佐藤昇志、深山正久、山口 朗、橋本 洋、覚道健一、加藤良平、黒田 誠、松原 修、本山悌一、根本則道、岡田保典、笹野公伸、白石泰三、安井 弥、吉野 正（以上理事）、真鍋俊明（以上監事）、

菊川敦子，大藪いづみ，（以上事務局）の各氏が出席した。青笹理事長の司会により議事を進行した。議事録署名人には出席者を代表して岡田保典，吉野 正両理事が指名された。

○報告事項

1. 理事長報告

- (1) 100周年記念事業として「病情報管理ネットワークセンター」を設置することとなった。このため，運営委員会（委員長：向井清理事），その下部組織として技術担当部門（委員長：宇於崎宏学術評議員），コンテンツ部門（委員長：鬼島宏学術評議員）を立ち上げて運営することとした。
- (2) Conflict of interest（COI）指針施行細則が前回理事会で承認されたことにともない，COI委員会を設置することとした。委員は井藤久雄学術評議員・倫理委員長（委員長），伏木信次学術評議員・倫理委員，伊藤雅文学術評議員，外部委員として弁護士一名である。本年度選出される次期役員候補者より適用する。
- (3) 細胞診講習会（3月12，13日実施）に出席できなかった14名のうち，12名の補講希望者に6月4日に補講を行う（東京大学医学部二号館）。
- (4) 病理専門医試験は会場を名古屋大学医学部に変更して日程どおり（7月30，31日）に実施する。実施委員，試験委員には変更がないが，黒田誠理事・中村栄男学術評議員を試験委員会特別補佐とすることになった。
- (5) 病理診断サマーフェストは会場を京都大学に変更して，日程（8月27，28日）どおりに開催する。
- (6) 東日本大震災への取り組みについて
 - ① 病理学会一般会計，100周年記念事業からそれぞれ500万円ずつ，日本赤十字社を通じて寄付金を拠出する。この件を，総会にはかることになった。
 - ② 会員への義援金の呼びかけを行い，学会期間中の受付デスクに呼びかけ文とともに募金箱を設置する。集まったお金は日本赤十字社を通じて被災地へ送ることとした。
 - ③ 東北支部への支援について
支部事務の運営に使用されている機器のうち，損壊したものについての購入等の補助を行う。後日支部より申請をしていただく。
この件につき，東北支部長本山理事よりお礼が述べられた。また東北支部所属笹野理事より，会員に人的被害はなかったこと等，被災状況の報告がされた。また今回の被災経験を会員に向けて発信し，会員同士で震災対策に関する知識と情報を共有したい旨，提案された。
- (7) 日本医療機構評価機構への評価委員の推薦（都筑豊徳学術評議員）を行った。平成23年4月より2年間である。
- (8) 日本医療安全機構，日本医学会「診療関連死に関する委員会」につき，青笹理事長，黒田理事より以下の報告が

された。

- ・4月11日，日本医学会「診療関連死に関する委員会」が開催され，日本医師会の作成した「医療事故調査制度についての骨子（案）」が説明され，これをもとに関係機関の調整をはかることを確認した。
- ・同日開催の日本医療安全調査機構平成23年度第1回理事会が開催され，上記の点を了承した。現在10ヶ所に置かれている地方事務局は順次閉鎖し，平成24年4月よりは東京（中央）事務局のみとなるなど，全体に縮小方向で継続されていくようであるが流動的である。
- ・病理医にとって重要な問題であるので，今後の動向に注意する。
- ・医療関連死については，警察届出等の現法改正についても各所で検討されているようである。

2. 各種委員会委員長報告

(1) 企画委員会（向井 清委員長）

① 学術評議員資格について

- ・現在の研究歴7年，学会歴5年，学術評議員2名の推薦というのは学会の運営の核となる学術評議員の資格としては不明確であり，資格を明確化することを理事長より指示された。
- ・学術評議員資格検討WGを結成して検討を進めるという報告がされた。
- ・学術評議員の門戸を広げて活性化するのか，学術評議員数を絞ってこれまで以上に働いてもらいたいのか，意図が明らかでないという意見が出された。
- ・学術評議員のあり方，学術評議員会の役割自体の検討が必要であることが確認されたため，前述のWGでは，まずこの件について検討することになった。

② 学術評議員定年制導入について（寺田信行理事）

- ・本学会の運営を各職場で活躍している若い現役会員に任せる体制にすることを趣旨とする。
- ・社会制度，学会内規約等を考慮し，65歳の誕生日を迎えた年度末を持って学術評議員は定年となり，一般会員となる。
- ・65歳時に25年以上の学術評議員歴を持つ会員は終身会費を一括納入すると，その時点で，名誉会員又は終身一般会員になることができる。終身会費の一括納入時期は，65歳以降いつでもよい。ただし，この25年という学術評議員歴に関しては，今後検討してみることとした。
- ・学術評議員の65歳定年制について学会HPに掲示して会員の意見を求めたところ，6名の意見が寄せられた。5名は賛成，1名はもう定年の年齢をもう少し延長した方がよいというものであった。
- ・学術評議員65歳定年制は，平成24年1月から施行することとした。
- ・今回の総会では定年制を導入することについて諮るこ

- ととした。
- ③ 平成 25 年 11 月までに、一般社団法人か公益認定社団法人に申請しなければならない。公益認定社団法人検討 WG での検討の結果を踏まえ、一般社団法人での申請の準備をすることとした。
- (2) 広報委員会（岡田保典委員長）
学会 HP 改訂の進捗状況が次のように報告された。笹氣印刷が東日本震災で被災したため、大幅な遅れがあるものの、7-8 月頃には完成予定である。英語版も多少拡充する。現在、各委員会や会員から種々の希望を募っている段階であるが、最終的な決定は広報委員会に一任してほしい。
- (3) 財務委員会（上田真喜子委員長）
- ① 支部会計の本部会計への合算のプロセスについて
各支部会計の本部会計への合算のプロセスについて、3 月 9 日の支部会議で合意した内容の説明があり、了承された。
- ② 専門医部会費値下げについての検討
専門医部会の会費値下げについて検討し、次回の財務委員会で、専門医制度会計と専門医部会会計の収入面、支出面の各費用について精査をはじめることとなった。
- ③ 22 年度収支決算案について
22 年度収支決算案について、4 月 15 日の常任理事会に提出された原案の収支計算書の前期繰り越し収支差額に誤りがあったため、4 月 18 日に修正収支決算書案が提出されたこと、およびそれに関連して 21 年度一般会計の繰越金額の赤字部分が約 2,000 万円増加したことなどの諸点についての説明が財務委員長よりあった。そのため、学会終了後に財務委員会として会計資料に基づいて会計士の説明をきくことになった。ただし、時間的制約のため、22 年度収支決算書案については承認することにした。
- (4) 学術委員会（佐藤昇志委員長）
“Pathology International”（以下 PIN）のインパクトファクター向上のため、理事は PIN に 3 年に 1 本投稿をするという方針が了解された。引き続き学術委員会や刊行委員会で具体的な実施要領を検討することにした。HP の PIN 閲覧サイトボタンも冊子の表紙画像を使うなど、工夫する予定である。
- (5) 研究推進委員会（安井 弥委員長）
- ① 第 8 回病理学会カンファレンス「病理学におけるグライコーム研究」は平成 23 年 8 月 5-6 日（信州大学中山淳世話人）に松本市で行われる。近日ポスターを学会関係施設に配布予定である。多くの方、特に若手会員の参加を期待する。
- ② 第 9 回病理学カンファレンスは池田栄二学術評議員（山口大）に世話人をお願いすることになった。
- ③ 専門医資格更新単位を 5 点から 10 点にする件については、本日の専門医制度運営委員会で対応できなかったが、近日審議されることが確認された。
- (6) 編集委員会（代理 向井 清委員）
- ① Pathology International について
- ・ 2012 年までの常任刊行委員と刊行委員の委嘱を行った。
 - ・ 昨年の投稿数は 309 編であった。本年も 300 編強の投稿が予想される。
 - ・ オンラインオンリーに移行したので Early view の欄を設け出版前の論文の掲載を始めた。
 - ・ 出版は順調で、2010 年の採択率は 37% である。
 - ・ 刊行委員の選出は編集委員会の承認を受けているので、その手続きを経るようという指摘があった。
 - ・ Pathology International の目次をメール配信する予定である。
- ② 診断病理について
- ・ 投稿数は横ばいであるが、九州沖縄支部からの投稿が減った分を他支部からの投稿で埋めている。
 - ・ 口腔病理専門医部会にも診断病理への投稿を呼びかけたい。そのために編集委員会に口腔病理専門医部会の代表のオブザーバー参加を呼びかけた。査読者にも加わっていただく予定である。
- ③ 剖検輯報について
- ・ 第 52 輯はデータの編集作業を行っている。症例登録施設は 852 施設で 14,000 件強が登録された。これは前年より 2,000 件の減少である。未だに紙ベースで登録している施設が 92 施設ある。
 - ・ 研修施設でありながら、登録を行っていない施設が 7 施設あり、その施設での剖検が専門医受験資格として認められなくなるので、警告することを考えている。
 - ・ 剖検輯報データベースに今年は科学研究費補助金が復活し、510 万円の補助がでることとなった。
- ④ がん取り扱い規約について
- ・ 「日本病理学会編」となっている規約については印税の分配を求める。一方で編集のための費用は応分を分担する方向で検討している。執筆担当者の選出と執筆内容のレビューをがん取り扱い規約委員会できちんと行う。
 - ・ 執筆者あるいはレビューワーは専門家だけでなく、一般病理医を加えることにした。
 - ・ がん取り扱い規約全体についての方向性などを議論する 18 名の拡大委員会を組織した。
- (7) 病理専門医制度運営委員会（深山正久委員長）
- ① 施設審査委員会にて、認定施設および登録施設の更新審査を行った。
- ・ 認定施設更新申請 191 のうち 11 施設が更新不可で

- あった。剖検数不足や研修指導医の不在が理由である。
- ・登録施設の更新申請は106（1施設申請なし）で全て更新された。
 - ・申請者の利便性を考慮し、今後は申請書類送付先を病院長から病理部門責任者宛とすることにした。認定証は従来どおり、病院長宛の送付とする。
- ② 本年度の専門医試験について
- ・夏場の電力不足を考慮し、本年の専門医試験会場を名古屋大学に変更した。中村栄男学術評議員、黒田誠理事にも特別試験委員補佐としてお手伝いいただく。
 - ・細胞診講習会が3月12日・13日に神戸で行われた。受験申請要件のため、震災の影響で出席できなかった人には6月4日に東京大学で補講を行い救済する予定である。
 - ・会期中の剖検講習会についてもDVDを撮影し、震災の影響で受講できなかった人の救済対応をする。DVDの作成配布を行う場合は著作権等に注意が必要な旨確認された。
 - ・今回より「研修手帳」利用者の受験申請が開始される。
 - ・厚生労働省の委員会が延期となったため、死体解剖資格の提出期限に猶予期間を設ける予定である。
- (8) 医療業務委員会（根本則道委員長）
- ① 社会保険委員会（委員長：稲山嘉明）
- 平成24年度診療報酬改定に向けた医療技術評価提案書の概要の説明があり
- ・病理診断管理加算Ⅰ（500点）及びⅡ（900点）（総合1位）
 - ・組織診断料（算定要件の見直し）
 - ・病理診断組織標本作製（点数の見直し）全割標本加算1760点
以下全体で12項目を要求することになった。
次回の改正時には、開業病理診断科での病理診断料の算定や、病理診断管理加算の新設等を要望していくこととする。
- ② 精度管理委員会（委員長：鬼島 宏）
- ・乳癌免染の精度管理に関するWGによるアンケート調査結果の進捗状況の報告があった。
 - ・乳癌、胃癌のHER2病理組織標本作製・病理診断ガイドラインの作成を開始した。
 - ・悪性腫瘍遺伝子検査アンケートについての原案の作成をしている。
 - ・精度管理委員会よりホームページ立ち上げについての要望があった。
 - ・免染を用いた鑑別診断パネルの立ち上げについて提案があった。
- ③ 剖検・病理技術委員会（委員長：柳井広之）
- ・病理技師の適正定数の実態調査につき、診断体制委員会のアンケート結果をもとに行う予定である。
 - ・小児の剖検に関する小児病理研究会との連携の模索が始まっている。
 - ・「前立腺癌小線源療法後1年以内死亡時の対応マニュアル」改訂の協力をした。
 - ・IHEJに継続参加の要望がだれきた。
- ④ 病理診断体制専門委員会（委員長：佐々木毅）
- ・22年度に行ったアンケート調査から教室プロローベの現状等を調査中で、秋の総会では結果を公表できるようにし、そのあり方と提言へのたたき台を作成したい。
 - ・厚生労働省がん対策室と病理医不足対策の検討を行っている。
 - ・衛生検査所の医療機関への移行、病理診断科開業の実態の把握等も行いたい。
- ⑤ コンサルテーション委員会（委員長：森谷卓也）
- 東北・関東大震災の影響と病理学会事務局の事務処理上の問題のため、当委員会によるコンサルテーション業務を当面休止する。ただし、十分な環境が整い次第業務を再開する。
- (9) 口腔病理専門医制度運営委員会（山口 朗委員長）
- ① 本年度試験は過去最多、10名を超える受験者となる可能性がある。
- ② 総会で口腔病理専門医研修規定が承認される予定であるため、引き続き実務対応に努力する。
- ③ 診断病理の編集委員会に口腔病理としてオブザーバーを派遣し、今後も積極的に関与していきたい。
- (10) 教育委員会（本山悌一委員長）
- ① 「病理コア画像」の利用状況の調査について
教師側からみたものは全国の医学部・医科大学の病理学教室に依頼して授業を担当している人からの回答を得たいので協力をお願いしたい。学生側からみたものについては数校を選び実施したい。
- ② ネットワークセンター内には教える側の教材として役立つものを置き、それを充実させていく。ホームページ上には今まで通り「病理コア画像」をおき、それをよりよいものとしていきたい。
このことにつき教育委員長はネットワークセンター運営委員会のメンバーである旨が理事長より申し添えられた。
- ③ 第101回総会には「病理学教育の実際」（仮題）のワークショップを要望していく。内容はCPCと試験方法を軸に考えていく。
- (11) 国際交流委員会（笹野公伸委員長）
- ① Pathological Society of Great Britain and Ireland Japanese-European collaborative project application
- ・英国側では2年分の2名分を一年で選考したのでそれを承認した。
 - ・日本側では応募者2名のうち石川雄一学術評議員を選出した。

- ② 来年度の英国病理学会では日本側から一名の講演者と二名の若手を選考するが、ホームページに掲載して公募する事となった。
- (12) 支部委員会 (橋本 洋委員長)
支部会計の本部会計への合算の方針および今後のプロセスについての上田財務委員長からの説明に基づいて、各支部長間で意見交換した。
- (13) 市民公開講座検討委員会 (吉野 正委員長)
委員会は会期中に開催予定である。昨秋の総会時に開催された市民公開講座は大変素晴らしいものだった。アンケート調査を行っているのでその解析を行いたい。今回の会期中の講座でも、アンケートを実施する予定である。
- (14) サマーフェスト委員会 (松原 修委員長)
今夏の第5回診断病理サマーフェスト「脳腫瘍の病理と臨床」は8月27日(土)・28日(日)に会場を京都大学百年記念ホールに変更して平戸純子世話人のもとで行う。内容、講師等の変更はない。
- (15) 診断講習会委員会 (向井 清委員長)
会期中開催のため、特に報告事項なし。
- (16) 支部選出学術委員会 (白石 泰三委員長)
座長候補者リストにつき、継続的にブラッシュアップを行う予定。
- (17) 死因究明委員会 (黒田 誠委員長)
理事長報告の際に報告済みである。
- (18) 人材育成委員会
- ① 1人病理医の業務状態を改善することが、人材獲得へつながると考えられる。この件につきアンケートを実施予定であるが、同様のものがすでになされているので、内容を整理した上、準備したい。
 - ② HPに男女共同参画委員会、若手医師確保に関する委員会等関連委員会のボタンをつくることなどについては、親委員会である人材育成委員会が調整することになった。
- (19) 男女共同参画委員会
会期中の委員会で支部ごとの女性病理医ネットワークの整備について検討する予定である。
3. 100周年記念事業の件 (深山 正久理事)
- ① 理事会終了後、第3回発起人会が開催される。
 - ② 寄付金については会員から約2,300万円、企業から約1,300万円が寄せられている。学会基金からの準備金2,000万円、その他1,000万円相当の器機無償貸与等もされている。
 - ③ 企画記念事業「病理情報管理ネットワークセンター」の運用については運営委員会を設立し、対応にあたることとなっている。
 - ④ 100周年記念誌については、笹氣出版印刷の2度の被災により、印刷が遅れている。式典ではDVDをお配りする予定である。
- ⑤ 式典については、東日本大震災を考慮し、講演会と祝賀会は中止とした。このことにより、500万円の寄付を日本赤十字社と通じて行う予定である。
- 協議事項は、以下のとおり、承認、決定した。
1. 平成22年度事業報告ならびに収支決算に関する件
上田財務委員長より、平成21年度の一般会計収支計算報告書の修正分が諮られ、承認された。この件については財務委員長及び財務委員会が引き続き精査することとなった。
平成22年度事業報告並びに収支決算書(平成22年4月1日から平成23年3月31日まで)(案)の説明と提案があった。当期収入は291,777,911円、当期支出は266,237,931円であり、当期収支差額は25,539,980円である。前期からの繰越を含め次期繰越額は92,560,191円である。協議の結果、原案のとおり満場一致で承認され、総会に諮ることとした。
 2. 平成23年度新名誉会員の推戴に関する件
青笹理事長より、平成23年度新名誉会員推戴者名簿(28名)が諮られた。協議の結果、原案のとおり満場一致で承認され、総会に諮ることとした。
 3. 平成22年度新入会員の承認の件
青笹理事長より、平成22年度新入会員名簿(前回理事会以降平成23年3月1日～平成23年3月31日)分(17年間267名)が諮られた。協議の結果、満場一致で原案のとおり承認された。
- ◇会員総会：平成23年4月28日(土)にパシフィコ横浜会議センターA会場(メインホール)にて、正会員3,695名のうち2,083名(うち委任状出席者1,593名)の出席を得て開催された。議長に深山正久会長を選び議事を進行した。議事録署名人には、出席者を代表して向井万起男(慶應義塾大学)、中島孝(静岡がんセンター)の両会員が指名された。
- 報告事項
1. 理事長報告
 - (1) 選挙制度改革における役員選任方法について、学術評議員により選出された役員候補者の総会での役員選任は、理事会の申し合わせに則り行う事が理事会において承認された。
 - (2) 癌取り扱い規約に関して
 - ・『癌取り扱い規約委員会』を拡大強化する事及び『拡大癌取り扱い規約委員会』の委員構成が報告され、これが承認された。
 - ・現在共同編集を行っている泌尿器科学会、産婦人科学会、脳神経外科学会に対しては、頁数に按分した担当学会への印税の支払い等を提案している事及びその具体的内容が報告された。
 - (3) 国際交流委員会に設置される『日中交流ワーキンググループ』のメンバー6名を決定した。

- (4) 研究推進委員会からの提案について
- ・優秀ポスター発表者を顕彰することとした。
 - ・病理学会カンファレンスの生涯学習単位を5単位から10単位に増加することについて、病理専門医制度運営委員会に検討を依頼することとした。
 - ・第8回病理学会カンファレンスは平成23年8月5-6日(信州大学 中山淳世話人)に松本市で行われる。テーマ「病理学におけるグライコーム研究」。是非若い会員ご参加いただきたい。
 - ・来年の第9回病理学会カンファレンスは池田栄二先生(山口大)に世話人をお願いすることになった。
- (5) 年会費未納者の取り扱いについて寺田副理事長を中心に検討されている事が報告された。
- (6) 学術委員会から、演題応募資格改定案がだされ、承認された。第101回総会から適用する。筆頭演者が会員であれば、共同演者は会員でなくてもよいことになった。
- (7) 学術評議員制度に関して。現役の学術評議員に学会の運営を委ねるようにするために65歳定年制を導入することに関する意見募集をホームページに掲載したところ、概ね賛成の意見が寄せられた。
- (8) 倫理委員会から提出された『医学研究のCOIマネジメントに関する指針施行細則』が承認された。実施のためのCOI委員会を設置することとした。
- (9) 昨年12月、厚生労働省医政局への乳癌、胃癌のHER2検査の保険償還の要望書提出に青笹理事長が出席した際、この検査に関する病理学会自身のガイドラインがない事を指摘された事が報告された。医療業務委員会委員長根本則道理事を中心に、病理学会の乳癌および胃癌のHER2検査のガイドラインの作成作業を行っている。
- (10) 日本病理専門医制評価・認定機構について。日本病理学会は、基本領域学会のメンバーとして、この機構の一員となっている。将来この機構が現在病理専門医制度運営委員会のやっている専門医認定を行うことになる。
- (11) 学術評議員資格の基準の検討のために、向井副理事長を中心としたワーキンググループを立ち上げ、検討を進める。
- (12) 日本病理学会は平成25年11月末迄に新制度に於ける公益社団法人あるいは一般社団法人に移行しなければならない。WGによる検討の結果、一般社団法人での申請を行うことになった。のちほど寺田副理事長より説明をする。
- (13) 病理専門医制度運営委員会報告
- ① 日本病理学会で研修手帳を作成し、病理専門医研修者に配布する件について報告され、承認された。
 - ② 本年3月12、13日神戸で開催された細胞診講習会には、93人の申込者のうち79名は参加できたが、東日本大震災の影響により14名(8名は今年の病理専門医受験者)は欠席となった。この14名のうち希望者12名に、6月4日、東京大学にて補講を行うことが承認された。
- ③ 病理専門医試験は会場を名古屋大学に変更し、日程(7月30、31日)どおり実施する。
- (14) 東日本大震災の影響で、コンサルテーション業務が円滑に行えないため、しばらくの間、日本病理学会のコンサルテーション業務を休止することとした。
- (15) 脳腫瘍をテーマにした今年の診断病理サマーフェストは会場を京都大学に変更して日程(8月27、28日)どおりに開催する。
- (16) 第57回(平成23年度)秋季特別総会学術研究賞演説(A演説)・B演説担当者選出の件
A演説は21名の応募中9名が選ばれ、B演説は、5名の応募中2名が選ばれた事が報告され、これを承認した。
- (17) 口腔病理専門医制度規定改定の件はのちほど協議事項で説明する。
- (18) 震災関連問題の協議
- ① 第100回総会について
常任理事会、理事会での慎重な意見交換の結果、理事全員の賛成により、規模を縮小して日程通りに開催することを承認した。
 - ② 東北関東大震災被災地への支援の取り組みについて
理事会において、青笹理事長から、病理学会員に義援金を募る事が提案された。他に、病理学会から資金を拠出し義援金を送る案、被災地の東北支部に病理学会から援助を行う案が提案された。常任理事会で検討した結果、以下のように意見がまとまった。
i 病理学会一般会計、100周年記念事業から寄付金を拠出する。併せて1,000万円
ii 会員への義援金の呼びかけを行い、学会期間中の受付デスクに呼びかけ文とともに募金箱を設置する。
集まったお金は日本赤十字社を通じて被災地へ送る。
 - ③ 東北支部への支援について
支部の事務運営に使用されている機器のうち、損壊したものについての購入等への補助を行う。
以上まで青笹克之理事長より説明された。
- (19) 新法人制度移行について寺田信行副理事長から下記のとおり説明があった。
- ① 公益社団法人制度の骨子が下記のとおり説明された。
 - ・公益社団法人の組織運営機構(内部統治機構)は、一般社団法人と同じである。
 - ・事業内容が主に公益事業の場合、申請すれば公益社団法人として認可され、税制上の優遇が与えられる。
 - ・しかし、それと引き換えに、財政運営における制約が課され、監督官庁の厳格な監督を受ける。
 - ② 一般社団法人、公益社団法人選択における要点として下記のことあげられた。
 - ・一般社団法人も公益社団法人も運営機構(内部統治機

構)は同じである。

- ・このため「公益社団法人での税制上の優遇と財政運営における制約、官庁の監督強化を天秤に掛けた時どのくらいメリットがあるか。」が選択の基準となる。
- ③ 検討ワーキンググループとして、下記の結論に達したことが報告された。
 - ・公益社団法人での税制上の優遇のメリットは現在の病理学会の財政運営状況から判断して少なく、又、公益法人制度が新しい制度であり、監督官庁の監督の基準、範囲も不明確である。
 - ・以上の理由で、一般社団法人を選択し、一般社団法人申請の準備に入る。
 - ・公益社団法人化については、他学会等での公益社団法人制度の運用状況を調査して今後判断する。
- ④ 上記につき、フロアの前田盛学術評議員より、病理学会はその活動内容のほぼすべてが公益事業であることを考えると、公益社団法人を目指すべきではないかという意見があった。
- ⑤ ④について、まずは一般社団法人に申請をする方向を考えているが、その後状況を見て公益社団へ移行する可能性も念頭においている旨、説明された。
- 20) 寺田信行副理事長より、企画委員会報告として学術評議員資格を、向井清副理事長を委員長とした検討ワーキンググループを設置し、検討する旨報告された。
- 21) 岡田保典広報委員長より、現在改訂中のHPについて下記のとおり説明があった。
 - ① 笹氣印刷が東日本震災で被災したため、大幅な遅れがあるものの、7-8月頃には完成予定。
 - ② 現在、各委員会や会員から種々の希望を募っている段階である。
 - ③ 最終的な決定は広報委員会に一任していただく。
- 22) 深山正久病理専門医制度運営委員長より下記の報告があった。
 - ① 本年の専門医試験会場は、名古屋大学に変更となった。
 - ② 震災の影響で厚生労働省の死体解剖資格の審査も遅滞しているようである。この件については提出に猶与期間を設けるので、本日現在認定証が届いていない人も、申請を前向きに検討して欲しい。

○協議事項

1. 平成22年度事業報告ならびに収支決算に関する件

上田真喜子財務委員長より、平成22年度事業報告並びに収支決算書(平成22年4月1日から平成23年3月31日まで)(案)の説明と提案があった。協議の結果、原案の通り満場一致で承認された。当期収入は291,777,911円、当期支出は266,237,931円であり、当期収支差額は25,539,980円である。前期からの繰越を含め次期繰越額は92,560,191円である。

また、支部会計と本部会計を合算する件につき、その手順、時期等の説明があった。

2. 新名誉会員の推戴に関する件

青笹克之理事長より、平成23年度新名誉会員推戴者名簿(28名)が諮られた。協議の結果、原案のとおり満場一致で承認された。
3. 新学術評議員の承認の件

青笹克之理事長より、平成23年度新学術評議員候補者名簿(76名)が諮られた。協議の結果、原案のとおり満場一致で承認された。
4. 会費値下げに関する件

会費値下げにつき、定款施行細則(案)、会費規定(案)が上田真喜子財務委員長から諮られた。協議の結果、原案のとおり満場一致で承認された。主な変更点は、博士課程大学院生および初期研修医の年会費を8,000円にしたこと、修士課程在籍者を学生扱いとし、年会費を5,000円としたことである。

また、病理専門医部会費の値下げについても検討を開始している旨報告された。
5. 口腔病理専門医制度規定改定の件

口腔病理専門医制度規定の改定につき山口朗理事より諮られた。協議の結果、原案のとおり満場一致で承認された。主に研修施設制度、指導医制度導入等、口腔病理専門医研修規定の整備に伴う変更である。
6. 学術評議員定年制導入に関する件

寺田信行副理事長から学術評議員の65歳定年制導入の趣旨と概要が説明された。協議の結果、その導入が満場一致で承認された。平成23年1月1日から制度を施行する。
7. 東日本大震災被災者支援の件
 - (1) 青笹理事長より、学会一般会計から500万円を拠出し、日本赤十字社を通じて被災地へ寄付金を送る件につき諮られた。協議の結果満場一致で承認された。
 - (2) 深山正久100周年記念事業実行委員会事務局長より、100周年記念事業で予定されていた祝賀会の中止、プログラムの縮小から生じた余剰金500万円を被災地への寄付金として拠出したい旨、諮られた。協議の結果満場一致で承認された。

○100周年記念事業実行委員会からの報告

- (1) 今回の100周年記念事業に対し、会員から2,000万円超、企業から約1,000万円と、予定を上回る多くの寄付が寄せられたことが長村義之100周年記念事業財務委員長より報告され、お礼の言葉がのべられた。またこれらの寄付金と学会基金から準備した2,000万円を合わせた約5,000万円につき、余剰金ができる見込みである。それについては「100周年記念事業特別会計」のようなかたちで財務委員会、100周年記念財務委員会にて慎重に協議しながら使用していきたい旨が述べられた。
- (2) 深山正久100周年記念事業事務局長より、100周年記念

誌については、印刷所が被災した関係で出版が遅れており、今回の総会では仮のDVDを配布したことが報告された。また、記念誌完成後には、寄付者へ本冊を送付し、各支部から会員へDVDを配布するとのことである。

◇新名誉会員の推戴について：平成23年度における新名誉会員は、下記の28名が推戴された。(ABC順)

遠藤 久子	福田 純也	石原 得博	伊藤 浩行
賀来 亨	木村 伯子	小林 慎雄	河野 俊彦
河野 正	國友 忠義	倉科 正徳	松崎 理
水無瀬 昂	森川 征彦	森山 昌樹	直江 史郎
能勢 真人	大藤 高志	岡野 匡雄	坂本 穆彦
佐久間秀夫	佐藤 達資	白井 智之	杉原 甫
武村 民子	玉置 信彦	恒吉 正澄	山口 和克

◇新学術評議員の決定について：平成23年度新学術評議員は、下記の76名に決定した。(ABC順)

阿部 佳子	赤平 純一	秋葉 純	新井 桃子
坂東 良美	千葉 卓哉	藤本 淳也	藤野 雅彦
福島 万奈	福島 裕子	福澤 龍二	濱田 義浩
橋口 明典	畑中 豊	畑中 一仁	平橋美奈子
廣井 慎之	本間 尚子	堀口慎一郎	池部 大
池村 雅子	伊古田勇人	石川 俊平	岩下 寿秀
梶本 和義	神谷 誠	川井 久美	川崎 朋範
河田 浩敏	菊地 良直	木村 勇人	岸野 万伸
清川 悦子	古賀 孝臣	小嶋 基寛	小嶋 啓子
近藤 哲夫	久野 壽也	倉岡 和矢	前田 一郎
前島亜希子	松原 大祐	松田 育雄	三橋 智子
三輪 秀明	森 大輔	向所 賢一	永野 輝明
中道伊津子	中野 晃伸	中島 正洋	大田 泰徳
尾島 英知	岡 一雅	沖村 明	沖野 毅
崎田 健一	佐久間裕司	笹平 智則	佐藤 淳
佐藤由紀子	新村 和也	塩澤 哲	塩沢 英輔
竹内 真	田中 優子	鶴山 竜昭	蔦 幸治
宇佐美 悠	牛久 哲男	魏 民	山口 倫
山本 憲	山下 依子	山崎 大	義澤 克彦

◇平成22年度学術奨励賞の授与について：平成23年4月30日の総会席上青笹克之理事長から、第12回(平成22年度)学術奨励賞受賞者 千葉卓哉(長崎大学)、廣橋良彦(札幌医科大学)、河崎秀陽(浜松医科大学)、近藤哲夫(山梨大学)、松原大祐(自治医科大学)、大石善丈(九州大学)、仙谷和弘(広島大学)の7名に賞状および記念品が授与された。

1. 老化のメカニズムおよびその制御法に関する基礎的研究：千葉 卓哉(長崎大学大学院医歯薬学総合研究科探索病理学)
2. ヒト癌幹細胞免疫応答機構の分子病理学的研究：廣橋良彦(札幌医科大学医学部病理学第一講座)

3. ES細胞/iPSにおけるサイトメガロウイルス感染感受性の多段階的制御とその機序：河崎 秀陽(浜松医科大学病理学第二講座)
4. 甲状腺癌におけるエピジェネティクス異常と癌の分化誘導に関する研究：近藤 哲夫(山梨大学医学工学総合研究部人体病理学)
5. 肺腺癌の進展機構と分子標的についての研究：松原 大祐(自治医科大学病理学講座統合病理学部門)
6. 婦人科腫瘍の病理診断および抗癌剤耐性に関する研究：大石 善丈(九州大学医学部形態機能病理・九州大学病院別府病院検査科)
7. 胃癌の発生・進展に関わる新規マーカーの探索とその病理診断への応用：仙谷 和弘(広島大学大学院医歯薬学総合研究科分子病理学研究室)(ABC順)

◇日本病理学会100周年記念式典について：平成23年4月29日(金)、パシフィコ横浜会議センターメインホールにて、「日本病理学会100周年記念式典」が挙行された。

◇学術研究賞(A演説)、B演説の選考について：第57回(平成23年度)秋期特別総会学術研究賞演説(A演説)、B演説については、それぞれ21題、5題の応募があった。3月28日の学術委員会で審議し、投票の結果、9題、2題を選考した。本件は、同日の理事会において、同委員会案のとおり決定した。

学術研究賞(A演説)(応募順)

1. 酸化ストレス制御を司るKEAP1-NRF2システムのがんにおける異常と病態像との関連：柴田龍弘(国立がん研究センターがんゲノミクス研究分野)
2. 膀胱尿路上皮癌進展にかかわる新規分子メカニズムの解析：島田啓司(奈良県立医科大学・病理病態学講座)
3. 全身性自己免疫疾患の感受性を左右する遺伝要因：廣瀬幸子(順天堂大学大学院医学研究科・分子病理病態学)
4. IgG4関連疾患：疾患概念の確立と病態研究：全 陽(Institute of Liver Studies, King's College Hospital, London)
5. 血液脳関門障害血管における分子メカニズム解明から血管性認知症の治療へ：上野正樹(香川大学医学部病理病態生体防御医学講座・炎症病理学)
6. 生きた細胞・組織における極性維持機構の解明：清川悦子(京都大学大学院医学系研究科病態生物医学)
7. 腫瘍発生に関わるβ-catenin変異とその生理的機能の関連：関根茂樹(国立がん研究センター研究所分子病理分野)
8. ヒトTリンパ球分化とT濾胞ヘルパーサブセット：一宮慎吾(札幌医科大学保健医療学部基礎臨床医学講座)
9. 白血球生物学から見た急性炎症反応の終止機構：西浦弘志(熊本大学大学院生命科学研究科分子病理分野)

B 演説 (応募順)

1. 日本における肝細胞腺腫の臨床病理学的検討：佐々木素子 (金沢大学医薬保健研究域医学系 形態機能病理学), 米田憲秀, 佐藤保則, 北村星子, 中沼安二
2. 野兎病の臨床的, 病理組織学的, 免疫組織学および分子生物学的検討—皮膚病性リンパ節症としての野兎病について—: 浅野重之 (いわき市立総合磐城共立病院病理科), 森 菊夫, 山崎一樹, 佐多徹太郎, 菅野隆行, 佐藤由子, 小島 勝, 赤池 康, 藤田博己, 若狭治毅

◇平成 23 年細胞診講習会：伊藤智雄 (神戸大学) 世話人のもとで, 平成 23 年 3 月 12 日 (土)～13 日 (日), 神戸大学にて実施され, 80 名が受講した。講師は, 伊藤智雄 (神戸大学), 南口早智子 (京都医療センター), 廣川満良 (隈病院), 大林千穂 (兵庫県立がんセンター), 河原邦光 (大阪府立呼吸器・アレルギー医療センター), 星田義彦 (住友病院), 小林省二 (姫路中央病院), の 7 名であった。なお, 東日本大震災のため 3 月に受講できなかった申込者のうち, 希望者には 6 月 4 日 (土) に東京大学にて補講を行い, 12 名が受講した。

◇第 29 回病理専門医試験について：平成 23 年度の病理専門医試験は, 7 月 30 日 (土), 7 月 31 日 (日) に名古屋大学会場にて実施された。83 名が受験して, 73 名が合格した (合格率 87.95%)。合格者氏名ならびに病理専門医登録番号は, 以下のとおりである (登録年月日：平成 23 年 8 月 3 日)。

平成 23 年度病理専門医合格者氏名
認定番号 姓 名

2870	田島 将吾	2891	田中 慎介
2871	宮田 友子	2892	笠島 敦子
2872	大友 梨恵	2893	坂田 征士
2873	香月奈穂美	2894	田中さやか
2874	伊丹 弘恵	2895	杉口 俊
2875	波多野裕一郎	2896	大久保陽一郎
2876	高橋 礼典	2897	高田 尚良
2877	平 麻美	2898	川上 史
2878	林 昭伸	2899	吉田 朗彦
2879	青柳 大樹	2900	石神 浩平
2880	内田 士朗	2901	加藤 省一
2881	加藤 生真	2902	吉田 誠
2882	伊東 良太	2903	高橋美紀子
2883	日野 るみ	2904	石垣 宏仁
2884	千原 剛	2905	城光寺 龍
2885	鈴木 司	2906	喜古雄一郎
2886	木下 真奈	2907	島津 宏樹
2887	前川 和也	2908	青木 良祐
2888	関 敦子	2909	成毛 有紀
2889	高瀬ゆかり	2910	中野 夏子
2890	古本あゆみ	2911	帖地 康世

2912	大石 琢磨	2928	安田 和世
2913	本間まゆみ	2929	山田 哲夫
2914	大橋 隆治	2930	山本 智彦
2915	桐山 諭和	2931	松坂 恵介
2916	前田 大地	2932	米盛 葉子
2917	桂田 由佳	2933	村田 雅樹
2918	稲井 邦博	2934	松原亜季子
2919	吉岡 年明	2935	坂下 信悟
2920	山田 健二	2936	濱島 丈
2921	榎木 英介	2937	尾山 武
2922	鬼頭 勇輔	2938	刑部 光正
2923	小笠原一誠	2939	及川 賢輔
2924	青木光希子	2940	岩谷 舞
2925	山本 洋平	2941	山田 洋介
2926	向 宗徳	2942	長谷川正規
2927	三井 伸二		

◇第 19 回口腔病理専門医試験について：平成 23 年度の口腔病理専門医試験は, 第 29 回病理専門医試験と同日, 同会場で行われた。10 名が受験して, 7 名が合格した (合格率 70%)。合格者氏名ならびに口腔病理専門医登録番号は, 以下のとおりである (登録年月日：平成 23 年 8 月 3 日)。

平成 23 年度口腔病理専門医合格者氏名

口腔認定番号	姓 名		
150	宮部 悟	154	大山 秀樹
151	結城美智子	155	石毛 俊幸
152	栢森 高	156	柳生 貴裕
153	丸山 智		

◇病理専門医・口腔病理専門医の資格の更新について：資格更新が認められた病理専門医・口腔病理専門医は, 以下のとおりである。

1. 病理専門医資格更新者氏名

第 3 回 認定 150 名

更新期間 平成 23 年 (2011 年) 4 月 1 日から 5 年間

認定番号	氏 名		
526	覚道 健一	550	鎌田 義正
527	田所 衛	552	久原 肇
528	桶田 理喜	553	浜崎 豊
533	佐藤 達資	556	三村 六郎
534	松壽 理	557	森 睦子
535	石川 義磨	559	長嶺 由啓
536	坂本 穆彦	564	深瀬 真之
540	小形岳三郎	565	立松 正衛
542	中里 洋一	566	津田 洋幸
547	貝森 光大	567	松原 修
548	岸川 正大	569	佐竹 立成

570	今村 哲夫	649	中林 洋	752	若林 とも	787	土屋 永寿
571	高橋 睦夫	653	安達 博信	753	林 博隆	788	木村 雄二
572	品川 俊人	655	関根 一郎	759	松谷 章司	791	岩間 憲行
575	大森 高明	657	筒井 祥博	762	鷹巢 晃昌	794	室 博之
576	石原 明德	659	石黒 信吾	763	光谷 俊幸	795	谷口 春生
578	箱崎 半道	661	福田 優	764	下川 伶子	798	塩田 敬
580	岡安 勲	662	向井萬起男	765	田中 智之	803	真鍋 俊明
582	坂江 清弘	664	赤塚 誠哉	766	高橋 洋平	806	諸星 利男
583	中村 康寛	665	近藤 安子	767	中村 眞一	807	原田 昌興
585	笹生 俊一	667	江村 巖	769	窪田 彬	810	実藤 隼人
586	柴本 忠昭	669	倉科 正徳	776	加藤 洋	815	岡部 英俊
587	佐々木功典	671	松浦 博夫	777	渡邊 照男	819	藤岡 保範
588	園部 宏	672	三俣 昌子	780	島田 篤子	822	恒吉 正澄
589	山下 裕人	676	松下 和彦	781	澤井 高志	823	伊藤 元
590	杉浦 浩	679	神田 誠	782	能勢 眞人	824	泉 啓介
592	大月 均	684	國友 忠義	785	森山 昌樹	826	植田 規史
593	入江 康司	685	渡邊 信				
594	遠藤 雄三	686	白根 博文				
597	花之内基夫	687	阪本 晴彦				
600	森 尚義	688	亀井 敏昭				
602	田中 勲	690	濱口 欣一	1211	榎木 登	1231	寺畑信太郎
603	森田 豊彦	691	古里 征国	1212	辻村 崇浩	1232	田丸 淳一
605	水無瀬 昂	692	城 謙輔	1213	大部 誠	1233	本間 慶一
606	福原 敏行	693	山口 裕	1214	林 一彦	1236	野島 孝之
607	佐久間秀夫	703	吉田 愛知	1215	小松 明男	1237	伊藤 隆明
610	前田昭太郎	705	武田 善樹	1216	車谷 宏	1238	後藤 正道
611	原 一夫	707	松田 幹夫	1217	小田 惠夫	1239	杉浦 仁
612	岩崎 宏	713	林 雄三	1219	白石 泰三	1240	澤田 達男
614	芝山 雄老	714	伊藤 浩行	1221	蓮井 和久	1241	中谷 行雄
615	吉田 豊	716	山下 憲一	1222	佐藤 明	1242	江口 正信
616	小川 惠弘	717	武村 民子	1223	平戸 純子	1243	鈴木不二彦
617	横山 繁昭	718	河合 俊明	1224	吉峰 二夫	1245	大藤 高志
618	井内 康輝	721	坂田 則行	1225	大井 章史	1246	福田 悠
620	遠藤 久子	723	明松 智俊	1226	末松 直美	1247	三浦 克敏
621	北村 創	725	三村 恵子	1228	中西 速夫	1248	玉井 正光
625	藤原 正之	726	芝田 敏勝	1229	堀部 良宗	1249	小柳津直樹
628	鈴木 利光	728	池田 庸子				
629	相羽 元彦	729	加藤 一夫				
630	瓦井美津江	731	白井 智之				
632	金城 満	735	多田 豊曠				
633	岩本 俊之	736	木村 伯子	1502	笹野 公伸	1513	赤池 康
635	荒川 正博	739	森川 征彦	1504	中山 淳	1514	山本 一郎
639	根本 啓一	740	副島 和彦	1505	村田 哲也	1515	中野 洋
641	甲賀 新	741	袖本 幸男	1508	石川 雄一	1516	家本 陽一
645	石井 壽晴	743	中沼 安二	1509	緒方謙太郎	1517	井上 泰
646	太田 秀一	744	内藤 眞	1510	飯嶋 達生	1518	黒滝日出一
647	長村 義之	747	鈴木 豊	1511	坂元 亨宇	1519	中島 透
648	河口 幸博	750	前田 盛	1512	伊藤以知郎	1520	津田 均

第8回(第3回試験) 認定 32名

更新期間 平成23年(2011年)4月1日から5年間

認定番号	氏名		
1211	榎木 登	1231	寺畑信太郎
1212	辻村 崇浩	1232	田丸 淳一
1213	大部 誠	1233	本間 慶一
1214	林 一彦	1236	野島 孝之
1215	小松 明男	1237	伊藤 隆明
1216	車谷 宏	1238	後藤 正道
1217	小田 惠夫	1239	杉浦 仁
1219	白石 泰三	1240	澤田 達男
1221	蓮井 和久	1241	中谷 行雄
1222	佐藤 明	1242	江口 正信
1223	平戸 純子	1243	鈴木不二彦
1224	吉峰 二夫	1245	大藤 高志
1225	大井 章史	1246	福田 悠
1226	末松 直美	1247	三浦 克敏
1228	中西 速夫	1248	玉井 正光
1229	堀部 良宗	1249	小柳津直樹

第13回(第8回試験) 認定 50名

更新期間 平成23年(2011年)4月1日から5年間

認定番号	氏名		
1502	笹野 公伸	1513	赤池 康
1504	中山 淳	1514	山本 一郎
1505	村田 哲也	1515	中野 洋
1508	石川 雄一	1516	家本 陽一
1509	緒方謙太郎	1517	井上 泰
1510	飯嶋 達生	1518	黒滝日出一
1511	坂元 亨宇	1519	中島 透
1512	伊藤以知郎	1520	津田 均

1521	小山 徹也	1544	五十嵐誠治
1522	浅田祐士郎	1545	稲田 健一
1523	樋口佳代子	1546	小田 秀明
1524	萩野 哲也	1547	干川 就可
1525	万代 光一	1548	多田 伸彦
1526	梅澤 明弘	1549	中谷 晃
1527	安井 英明	1550	江石 義信
1529	松井 一裕	1552	長谷部孝裕
1532	弘井 誠	1553	山村 彰彦
1533	能勢聡一郎	1554	西川 祐司
1534	佐熊 勉	1555	馬場 聡
1535	鬼島 宏	1556	蛭名 義仁
1536	宗 寛之	1559	鶴田 潤二
1538	川端 晃幸	1560	高木 正之
1539	小野田 登	1561	熊坂 利夫
1540	中村 雅登	1562	佐藤 啓一
1543	服部 淳夫	1563	福田 春樹

第18回(第13回試験) 認定 51名

更新期間 平成23年(2011年)4月1日から5年間

認定番号	氏名	認定番号	氏名
1810	小野 一雄	1843	内木 宏延
1811	薄田 浩幸	1844	星井 嘉信
1812	野首 光弘	1845	田代賀比古
1813	谷本 昭英	1846	村雲 芳樹
1814	星田 義彦	1847	末吉 和宣
1816	伊倉 義弘	1848	山崎 大
1817	湧谷 純	1849	神田 浩明
1818	渡辺 みか	1850	横井太紀雄
1822	武島 幸男	1851	安見 和彦
1823	三上 芳喜	1852	和田 龍一
1824	櫻井 宏治	1853	桂 義久
1825	菅原 修	1854	早瀬 ヌネ子
1826	西川 俊郎	1857	上原 久典
1827	溝口 幹朗	1858	清水 和彦
1829	河村 俊治	1859	平井 周
1830	安田 政実	1860	鈴木 誠
1833	湊 宏	1862	前島 俊孝
1834	安田 大成	1863	小野 貞英
1835	相田 芳夫	1864	横山 慶一
1836	佐野 孝昭	1865	藤原 久美
1837	中江 大	1866	武内 英二
1838	都築 豊徳	1867	大塚 成人
1839	櫻井 信司	1868	中村 靖司
1840	前田 智治	1869	大城 由美
1841	菅野 祐幸	1870	西村理恵子
1842	飯田 健一		

第23回(第18回試験) 認定 70名

更新期間 平成23年(2011年)4月1日から5年間

認定番号	氏名	認定番号	氏名
2164	渡邊 和子	2202	山本 泰一
2165	村瀬 貴幸	2203	木藤 克己
2166	清川 貴子	2204	木村 幸子
2167	前島亜希子	2205	大喜多 肇
2168	佐々木俊樹	2206	東 美智代
2169	小林 雅子	2207	後藤 明輝
2170	加藤 哲子	2208	國安 弘基
2171	泥谷 直樹	2209	高木 芳武
2172	二村 聡	2210	福岡 順也
2173	佐藤 文子	2211	仙波 秀峰
2174	新村祐一郎	2212	高瀬 優
2175	篠原 敏也	2213	宇野 澄子
2176	河内 茂人	2214	広川 佳史
2177	中野 晃伸	2215	高橋 正人
2178	前川 傑	2216	小幡 雅彦
2179	長谷川秀樹	2217	藤井 誠志
2180	鹿股 直樹	2218	白石 淳一
2181	平川栄一郎	2219	榎 泰之
2183	塚本 吉胤	2220	上條 聖子
2184	西川 眞史	2221	高田 礼子
2185	藤井 晶子	2222	檜垣 浩一
2186	西原 弘治	2223	木村 昭治
2187	西倉 健	2224	白川 律子
2188	大池 信之	2226	梶原 博
2189	山中 正二	2227	松木 康真
2190	石津 英喜	2228	倉田 厚
2191	中村 悦子	2229	寺本 典弘
2192	和仁 洋治	2230	浦崎 晃司
2194	一宮 慎吾	2231	橋口 明典
2195	福留 寿生	2232	遠藤 希之
2196	及川 浩樹	2233	島尻 正平
2197	大沢 淳子	2234	パンナチエート エーカポット
2198	荒川 敦		
2199	前西 修	2235	高澤 豊
2200	佐藤 啓介	2236	脇屋 緑
2201	松木田純香		

第28回(第23回試験) 認定 51名

更新期間 平成23年(2011年)4月1日から5年間

認定番号	氏名	認定番号	氏名
2508	栗栖 義賢	2513	稲熊 真悟
2509	高橋 博之	2514	島田 啓司
2510	阿部 康人	2515	渋谷 里絵
2511	西尾 知子	2516	佐久間貴彦
2512	佐藤 勝明	2517	伊古田勇人

2518	池田 英之	2540	畑中 一仁
2519	秋葉 純	2541	福村 由紀
2520	石田 英和	2542	佐々木 文
2521	田尻 琢磨	2543	鶴山 竜昭
2522	五味 淳	2544	羽尾 裕之
2523	全 陽	2545	東海林琢男
2524	下田 将之	2546	北村 淳子
2525	栃木 直文	2547	高野 俊史
2526	山下 篤	2548	西原 広史
2527	坂下 裕美	2549	黒川 景
2528	岩淵 英人	2550	笹尾 ゆき
2529	榎澤 哲司	2551	大田 泰徳
2530	大橋 明子	2552	日下部 崇
2531	一戸 昌明	2553	尾崎 義丸
2532	渡邊 麗子	2554	有澤 正義
2534	戸井 慎	2555	藤澤 真義
2535	角谷 亜紀	2556	松原 大祐
2536	尾松 睦子	2557	山崎 英子
2537	大庭 華子	2558	寺崎 泰弘
2538	酒井 康裕	2559	山下 理子
2539	栗原 恭子		

第1回 認定 5名

更新期間 平成23年(2011年)4月1日から3年間

認定番号	氏名		
43	山口 正直	214	佐川 文明
140	星 昭二	287	住吉 昭信
210	吉田 洋二		

第2回 認定 6名

更新期間 平成23年(2011年)4月1日から4年間

認定番号	氏名		
369	高沢 博	440	河上 牧夫
398	手塚 文明	447	三浦 妙子
401	森 茂郎	481	中島 伸夫

第4回 認定 1名

更新期間 平成23年(2011年)4月1日から1年間

認定番号	氏名
987	中村仁志夫

第21回(第16回試験) 認定 2名

更新期間 平成23年(2011年)4月1日から3年間

認定番号	氏名		
2080	齋木由利子	2090	山下 依子

第22回(第17回試験) 認定 4名

新期間 平成23年(2011年)4月1日から4年間

認定番号	氏名		
2114	鈴木 理	2154	前沢 千早
2116	寺山 清美	2159	村上 秀樹

2. 口腔病理専門医資格更新者氏名**第3回 認定 8名**

更新期間 平成23年(2011年)4月1日から5年間

認定番号	氏名		
46	林 良夫	51	出雲 俊之
47	山口 朗	54	伊東 博司
49	橋本 貞充	55	小川 裕三
50	朔 敬	57	立川 哲彦

第8回(第3回試験) 認定 1名

更新期間 平成23年(2011年)4月1日から5年間

認定番号	氏名
84	和唐 雅博

第13回(第8回試験) 認定 4名

更新期間 平成23年(2011年)4月1日から5年間

認定番号	氏名		
106	岡田 裕之	109	槻木 恵一
107	草深 公秀	110	千場 良司

第11回(第6回試験) 認定 1名

更新期間 平成23年(2011年)4月1日から3年間

認定番号	氏名
98	田中 秀邦

第17回(第12回試験) 認定 1名

更新期間 平成23年(2011年)4月1日から4年間

認定番号	氏名
127	森 泰昌

◇平成22年度認定病院・登録施設(第33回)の審査について: 認定施設, 登録施設としての新規の申請は, 9件, 35件であった。審査の結果, 認定施設は7件, 登録施設はすべてが承認された。認定(登録)期間は, 平成22年4月1日から平成24年3月31日までである。

(1) 認定施設

認定番号	病院名
3140	(財)東京都保健医療公社東部地域病院
4090	山田赤十字病院
5087	社会医療法人長生会府中病院
5088	医療法人橘会東住吉森本病院
5915	関西医科大学附属枚方病院

- 6053 独立行政法人労働者健康福祉機構中国労災病院
7043 公立学校共済組合九州中央病院

(2) 登録施設

登録番号	病院名
1009	国家公務員共済組合連合会札幌医療センター斗南病院
1035	岩見沢市立総合病院
1036	市立千歳市民病院
1037	市立稚内病院
2032	大館市立総合病院
3073	富士重工健康保険組合総合太田病院
3076	社会福祉法人浴風会浴風会病院
3121	国際医療福祉大学病院
3122	原町赤十字病院
3123	館林厚生病院
3124	なめがた地域総合病院
3125	医療法人柏堤会戸塚共立第1病院
3906	東京女子医科大学附属八千代医療センター
4092	福井県済生会病院
4116	社会医療法人厚生会木沢記念病院
5062	社会医療法人誠光会草津総合病院
5095	市立岸和田市民病院
5096	橋本市民病院
5097	医療法人健生会土庫病院
5098	宝塚市立病院
5902	近畿大学医学部堺病院
6029	社会福祉法人恩賜財団済生会今治病院
6061	心臓病センター榊原病院
6062	独立行政法人国立病院機構岩国医療センター
6063	山口県厚生農業協同組合連合会小郡第一総合病院
6064	済生会山口総合病院
6065	総合病院山口赤十字病院
6066	宇部興産株式会社中央病院
7012	熊本赤十字病院
7075	朝倉医師会病院
7076	中津市民病院
7077	健康保険諫早総合病院
7078	社会医療法人仁愛会浦添総合病院
7079	医療法人沖繩徳洲会中部徳洲会病院
7901	久留米大学医療センター

◇平成23年度認定病院・登録施設の更新について：認定病院・登録施設としての更新申請は、審査の結果、それぞれ180施設および106施設の更新が認められた。認定（登録）期間は、平成23年4月1日から平成25年3月31日までである。

平成23年度病理専門医研修施設（認定施設）更新機関
（第2, 4, 6, 8, 10, 12, 14, 16, 18, 20, 22, 24, 26, 28, 30, 32 180

施設)
期間2年間 平成23年4月1日～平成25年3月31日

第2回 認可（13施設）

認定番号	施設名
2005	山形県立中央病院
2006	(財)竹田総合病院
3019	埼玉県立がんセンター
3020	公益財団法人がん研究会有明病院
3021	JR東京総合病院
3022	国家公務員共済組合連合会虎の門病院
4007	新潟市民病院
4008	名古屋第一赤十字病院
4009	独立行政法人国立病院機構金沢医療センター
5009	地方独立行政法人大阪府立病院機構大阪府立急性期・総合医療センター
5010	独立行政法人労働者健康福祉機構大阪労災病院
7002	九州厚生年金病院
7003	独立行政法人国立病院機構九州がんセンター

第4回 認可（2施設）

認定番号	施設名
3028	日本赤十字社医療センター
4010	長野県厚生農業協同組合連合会佐久総合病院

第6回 認可（5施設）

認定番号	施設名
3035	越谷市立病院
3039	総合病院国保旭中央病院
3040	東京都立小児総合医療センター
4015	長野赤十字病院
5017	奈良県立奈良病院

第8回 認可（8施設）

認定番号	施設名
3045	公立学校共済組合関東中央病院
3046	東京都立多摩総合医療センター
4017	静岡県立総合病院
4018	社会保険中京病院
5019	(財)日本生命済生会附属日生病院
5020	兵庫県立西宮病院
5021	兵庫県立淡路病院
6017	広島市立安佐市民病院

第10回 認可（10施設）

認定番号	施設名
3002	群馬県立がんセンター
3052	伊勢崎市民病院
3054	東京都済生会中央病院

4024	長岡赤十字病院
4025	富士市立中央病院
4026	社会福祉法人聖隷福祉事業団総合病院聖隷浜松病院
4027	富山県立中央病院
5012	(財)住友病院
5025	地方独立行政法人大阪府立病院機構大阪府立母子保健総合医療センター
7011	北九州市立医療センター

第12回 認可 (10 施設)

認定番号	施設名
3060	(株)日立製作所日立総合病院
3061	東京歯科大学市川総合病院
3062	東京都立墨東病院
3063	公立昭和病院
3064	恩賜財団済生会横浜市南部病院
4030	公立陶生病院
6019	松山赤十字病院
7012	社会医療法人雪の聖母会聖マリア病院
7013	熊本市立熊本市市民病院
7014	宮崎県立宮崎病院

第14回 認可 (11 施設)

認定番号	施設名
2015	(財)温知会会津中央病院
3069	茨城県立中央病院・茨城県地域がんセンター
3070	医療法人社団千葉県勤労者医療協会船橋二和病院
3071	東京都立大塚病院
3072	東京警察病院
3073	医療法人社団健全会立川相互病院
4034	藤枝市立総合病院
4035	社会医療法人蘇西厚生会松波総合病院
4036	三重県厚生農業協同組合連合会鈴鹿中央総合病院
5033	NTT 西日本大阪病院
6021	広島赤十字・原爆病院

第16回 認可 (4 施設)

認定番号	施設名
1010	JA 北海道厚生連旭川厚生病院
2017	盛岡赤十字病院
3076	独立行政法人労働者健康福祉機構東京労災病院
3077	独立行政法人労働者健康福祉機構横浜労災病院

第18回 認可 (11 施設)

認定番号	施設名
3079	総合病院土浦協同病院
3080	さいたま市立病院
3081	独立行政法人国立がん研究センター東病院

4016	名古屋第二赤十字病院
4042	黒部市民病院
4043	豊橋市民病院
4045	小牧市民病院
5040	大阪市立総合医療センター
5041	独立行政法人労働者健康福祉機構関西労災病院
6024	高松赤十字病院
7019	佐世保市立総合病院

第20回 認可 (3 施設)

認定番号	施設名
3086	財団法人東京都保健医療公社荏原病院
4047	社会福祉法人聖隷福祉事業団総合病院聖隷三方原病院
5044	独立行政法人国立病院機構神戸医療センター

第22回 認可 (27 施設)

認定番号	施設名
1012	KKR 札幌医療センター
2022	独立行政法人労働者健康福祉機構東北労災病院
2023	仙台市立病院
2024	東北厚生年金病院
2025	石巻赤十字病院
2026	秋田赤十字病院
3048	さいたま赤十字病院
3051	横須賀市立市民病院
3096	(財)東京都保健医療公社大久保病院
3097	医療法人財団河北総合病院
4003	愛知県がんセンター中央病院
4005	富山市立富山市民病院
4019	独立行政法人岐阜県立多治見病院
4051	諏訪赤十字病院
4054	医療法人豊田会刈谷豊田総合病院
5024	市立豊中病院
5047	社会福祉法人恩賜財団済生会滋賀県病院
5048	東大阪市立総合病院
5049	公立豊岡病院組合立豊岡病院
5051	日本赤十字社和歌山医療センター
6008	香川県立中央病院
6025	松江赤十字病院
6026	独立行政法人労働者健康福祉機構香川労災病院
6027	徳島赤十字病院
7008	鹿児島市立病院
7021	福岡赤十字病院
7022	独立行政法人国立病院機構熊本医療センター

第24回 認可 (11 施設)

認定番号	施設名
1006	独立行政法人国立病院機構北海道がんセンター

3104	独立行政法人国立病院機構栃木病院	4072	富山赤十字病院
3106	桐生厚生総合病院	4073	富山県済生会高岡病院
4059	独立行政法人国立病院機構まつもと医療センター 松本病院	4074	JA 長野厚生連小諸厚生総合病院
4060	済生会新潟第二病院	4075	静岡市立清水病院
5007	兵庫県立尼崎病院	4076	愛知県厚生農業協同組合連合会海南病院
5063	社会保険神戸中央病院	4077	半田市立半田病院
5064	神戸市立医療センター西市民病院	4078	稲沢市民病院
5065	滋賀県立成人病センター	4078	製鉄記念広畑病院
7025	公立八女総合病院	5079	医療法人生長会ベルランド総合病院
7026	医療法人白十字会佐世保中央病院	5080	国家公務員共済組合連合会大手前病院
第 26 回 認可 (21 施設)		6037	徳島県立中央病院
認定番号	施設名	6039	福山市医師会診断病理学センター
1023	北海道立子ども総合医療・療育センター	6040	独立行政法人国立病院機構東広島医療センター
1024	医療法人溪仁会手稲溪仁会病院	7037	社会福祉法人恩賜財団済生会支部福岡県済生会八幡総合病院
3047	国家公務員共済組合連合会横浜南共済病院	第 30 回 認可 (11 施設)	
3094	医療法人社団東光会戸田中央総合病院	認定番号	施設名
3111	利根保健生活協同組合利根中央病院	1027	医療法人徳洲会札幌東徳洲会病院
3112	独立行政法人国立病院機構水戸医療センター	4081	静岡赤十字病院
3113	埼玉県済生会川口総合病院	4082	名古屋記念病院
3114	北里研究所病院	4083	名古屋市立東部医療センター東市民病院
3116	日本私立学校振興・共済事業団東京臨海病院	5082	独立行政法人労働者健康福祉機構神戸労災病院
3117	川崎市立井田病院	5083	姫路赤十字病院
3118	財団法人神奈川県警友会けいゆう病院	6045	三豊総合病院
4066	愛知県厚生農業協同組合連合会江南厚生病院	6046	財団法人永頼会松山市民病院
4067	新潟県立新発田病院	6047	高知赤十字病院
4068	高岡市民病院	6048	高知医療センター
5068	彦根市立病院	7040	独立行政法人労働者健康福祉機構熊本労災病院
5070	医療法人社団洛和会音羽病院	第 32 回 認可 (10 施設)	
5072	独立行政法人国立病院機構近畿中央胸部疾患センター	認定番号	施設名
5073	独立行政法人労働者健康福祉機構和歌山労災病院	3023	独立行政法人国立病院機構相模原病院
6034	高松市民病院	3095	独立行政法人労働者健康福祉機構千葉労災病院
7032	千鳥橋病院	3139	社団法人地域医療振興協会横須賀市立うわまち病院
7033	医療法人社団新日鐵八幡記念病院	4087	土岐市立総合病院
第 28 回 認可 (23 施設)		4088	恩賜財団済生会松阪総合病院
認定番号	施設名	5061	神戸協同病院
1009	社会福祉法人函館厚生院函館五稜郭病院	5085	独立行政法人国立病院機構刀根山病院
2036	みやぎ県南中核病院	5086	西宮市立中央病院
3123	公立藤岡総合病院	7041	日本赤十字社長崎原爆病院
3125	埼玉社会保険病院	7042	社会医療法人敬愛会中頭病院
3126	埼玉県立小児医療センター	平成 23 年度病理専門医研修施設 (登録施設) 更新機関	
3127	財団法人筑波メディカルセンター筑波メディカル センター病院	(第 2,4,6,8,10,12,14,16,18,20,22,24,26,28,30,32 106 施設)	
3128	独立行政法人国立病院機構千葉医療センター	期間 2 年間 平成 23 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日	
3131	社会医療法人財団石心会川崎幸病院	第 2 回 認可 (3 施設)	
4020	独立行政法人労働者健康福祉機構中部労災病院	登録番号	施設名
		3028	総合病院厚生中央病院

3029	川崎医療生活協同組合川崎協同病院	第 18 回	認可 (4 施設)
4024	浜松赤十字病院	登録番号	施設名
		3078	東芝病院
		4064	長野県立こども病院
		5049	医療法人川崎病院
		6025	独立行政法人国立病院機構福山医療センター
第 4 回	認可 (3 施設)	第 22 回	認可 (11 施設)
登録番号	施設名	登録番号	施設名
5024	公立南丹病院	1018	苫小牧市立病院
6011	総合病院水島協同病院	2010	岩手県立宮古病院
7018	社会保険宮崎江南病院	4076	独立行政法人国立病院機構長野病院
		4077	医療法人徳洲会名古屋徳洲会総合病院
第 6 回	認可 (6 施設)	5060	公立甲賀病院
登録番号	施設名	5065	社会医療法人きつこう会多根総合病院
2011	地方独立行政法人秋田県立病院機構秋田県立脳血管研究センター	6002	国家公務員共済組合連合会広島記念病院
3036	医療法人社団順江会江東病院	6037	独立行政法人国立病院機構善通寺病院
4002	市立島田市民病院	6038	社会福祉法人恩賜財団済生会松山病院
4028	市立岡谷病院	6039	済生会西条病院
4030	総合病院高山赤十字病院	6040	愛媛県立今治病院
7025	総合病院鹿児島生協病院	第 24 回	認可 (6 施設)
第 8 回	認可 (2 施設)	登録番号	施設名
登録番号	施設名	1021	江別市立病院
3055	横浜市立みなと赤十字病院	1022	滝川市立病院
6016	下関市立中央病院	3091	神奈川県厚生農業協同組合連合会相模原協同病院
第 10 回	認可 (4 施設)	4083	磐田市立総合病院
登録番号	施設名	5068	社会福祉法人恩賜財団済生会京都府病院
3058	神奈川県厚生農業協同組合連合会伊勢原協同病院	6041	独立行政法人国立病院機構高知病院
3060	神奈川県立循環器呼吸器病センター	第 26 回	認可 (13 施設)
5036	市立吹田市民病院	登録番号	施設名
7030	鹿児島市医師会病院	1023	独立行政法人労働者健康福祉機構北海道中央労災病院
第 12 回	認可 (1 施設)	2025	市立秋田総合病院
登録番号	施設名	2027	気仙沼市立病院
4047	医療法人(社団)中労働者医療協会松本協立病院	3096	社会保険群馬中央総合病院
第 14 回	認可 (4 施設)	3097	群馬県済生会前橋病院
登録番号	施設名	3099	社会保険山梨病院
2016	津軽保健生活協同組合健生病院	4087	社会福祉法人聖霊会聖霊病院
5045	西脇市立西脇病院	4088	医療法人偕行会名古屋共立病院
6018	岡山医療生活協同組合総合病院岡山協立病院	4090	国家公務員共済組合連合会舞鶴共済病院
7033	国家公務員共済組合連合会新小倉病院	5075	医療法人宝生会 PL 病院
第 16 回	認可 (3 施設)	5077	神戸百年記念病院
登録番号	施設名	6044	公立学校共済組合中国中央病院
7037	福岡市立こども病院・感染症センター	6045	財団法人津山慈風会津山中央病院
7038	独立行政法人国立病院機構福岡東医療センター		
7039	医療法人同心会古賀総合病院		

第 28 回	認可 (10 施設)
登録番号	施設名
1025	名寄市立総合病院
1026	総合病院北見赤十字病院
1027	JA 北海道厚生連帯広厚生病院
2028	福島県厚生農業協同組合連合会白河厚生総合病院
4094	伊那中央病院
4095	独立行政法人労働者健康福祉機構旭労災病院
5080	社会医療法人景岳会南大阪病院
6049	財団法人倉敷成人病センター
7047	宮崎県立日南病院
7054	大分赤十字病院

第 30 回	認可 (17 施設)
登録番号	施設名
1031	総合病院伊達赤十字病院
1032	総合病院釧路赤十字病院
1033	特定医療法人北楡会 札幌北楡病院
1034	医療法人社団北斗 北斗病院
3112	千葉県済生会習志野病院
3113	佐野厚生総合病院
4089	医療法人社団志聖会犬山中央病院
4098	安曇野赤十字病院
4100	独立行政法人国立病院機構豊橋医療センター
4111	福祉医療センター名古屋市厚生院附属病院
5083	社会医療法人阪南医療福祉センター阪南中央病院
5084	市立小野市民病院
5085	三木市立三木市民病院
6053	独立行政法人国立病院機構浜田医療センター
6054	独立行政法人労働者健康福祉機構山口労災病院
7059	独立行政法人国立病院機構大分医療センター
7060	公益社団法人鹿児島共済会南風病院

第 32 回	認可 (19 施設)
登録番号	施設名
1024	留萌市立病院
2031	独立行政法人国立病院機構弘前病院
3118	群馬県立心臓血管センター
3119	国家公務員共済組合連合会横浜栄共済病院
3120	社団法人山梨勤労者医療協会甲府共立病院
4043	富山県厚生農業協同組合連合会高岡病院
4115	岐阜赤十字病院
5014	近江八幡市立総合医療センター
5091	綾部市立病院
5092	大阪府済生会野江病院
5093	市立池田病院
5094	市立芦屋病院
6059	さぬき市民病院

6060	香川県厚生農業協同組合連合会屋島総合病院
7069	国家公務員共済組合連合会浜の町病院
7070	宗像医師会病院
7071	社会医療法人大成会福岡記念病院
7072	大分県済生会日田病院
7073	佐賀県立病院好生館

◇平成 22 年度事業報告について：第 100 回（平成 23 年度）総会における会員総会で承認された社団法人日本病理学会平成 22 年度事業報告（平成 22 年 4 月 1 日から平成 23 年 3 月 31 日まで）は、以下のとおりである。

I. 学術集会、研究会等の開催

1. 学術集会の開催

- (1) 「第 99 回日本病理学会総会」（於東京・樋野興夫会長）を開催
 - (2) 「第 56 回日本病理学会秋期特別総会」（於北九州・橋本 洋会長）を開催
- ##### 2. 研究会、講習会等の開催
- (1) 第 7 回日本病理学会カンファレンス（2010 岡山 8 月 6 日・7 日）を実施
 - (2) 細胞診講習会（於神戸市 3 月 12 日・13 日）を実施
 - (3) 病理診断講習会（於東京都 4 月 27 日～29 日）を実施
 - (4) 第 4 回診断病理サマーフェスト（於京都市 8 月 28 日・29 日）を実施
 - (5) 各支部における「学術・研究集会」等を実施

3. 公開講座・シンポジウムの開催

II. 学会誌、学術図書等の発行

1. 「日本病理学会会誌」（第 99 巻第 1～2 号）を発行
2. 「Pathology International」（Vol. 60 4～12, Vol. 61 1～3）を発行
3. 「診断病理」（第 27 巻第 2～4 号, 第 28 巻第 1 号）を発行
4. 「日本病理学会会報」（第 267～278 号）を発行
5. 「お知らせ」（第 1 号～3 号）を発行
6. 「病理専門医部会報」（2010 年第 2～4 号, 2011 年第 1 号）を発行

III. 研究および調査

1. 「日本病理剖検輯報」第 51 輯（平成 20 年症例）を発行
2. 剖検輯報編集方法の変更・充実
3. 剖検記録データベースの再構築

IV. 病理専門医等の資格認定

1. 病理専門医・口腔病理専門医の認定・試験（於京都市）の実施及び資格の更新
2. 病理専門医の広告
3. 「病理専門医研修手帳」の実施
4. 病理専門医研修施設の認定および資格の更新

V. 学術団体との協力、連絡

1. 学術団体等との会議共催および後援（国内）を実施
2. 腫瘍取扱い規約等の改訂
3. 海外病理学会との交流
 - (1) 英国病理学会との会員の相互派遣、学術交流を実施
 - (2) アジア各国との学術交流を実施

VI. その他目的を達成するために必要な事業

1. 日本病理学賞（宿題報告）を3名に授与
2. 日本病理学会学術奨励賞を7名に授与
3. 日本病理学会学術研究賞（A演説）を7名に授与
4. 病理学卒前教育の充実
5. 病理診断コンサルテーションシステムの充実
6. インターネットホームページの充実
7. 病理専門医制度運営、医療業務、学術・研究等の各種委員会の開催
8. 日本病理学会100周年記念事業実施準備
9. 医師賠償責任保険加入取扱いの実施

◇平成22年度収支決算報告について：第100回(平成23年度)総会における会員総会で承認された社団法人日本病理学会平成22年度収支決算報告は、以下のとおりである。

1) 収支計算書

平成22年4月1日から平成23年3月31日まで

(単位 円)

科 目	予算額	決算額	差 異	備 考
I. 収入の部				
1. 基本財産運用収入	50,000	9,248	△ 40,752	
受取利息収入	50,000	9,248	△ 40,752	
2. 会費収入	70,560,000	85,316,000	14,756,000	
正会員・学術評議員会費	28,000,000	32,598,000	4,598,000	
同終身会費	3,000,000	4,300,000	1,300,000	
同一般会員会費	27,000,000	34,078,000	7,078,000	
学生会員会費	10,000	0	△ 10,000	
賛助会員会費	150,000	100,000	△ 50,000	
機関会員会費	400,000	380,000	△ 20,000	
病理専門医部会員会費	12,000,000	13,860,000	1,860,000	
3. 事業収入	132,700,000	150,715,330	18,015,330	
学術集会収入	90,000,000	107,152,172	17,152,172	
論文掲載料収入	900,000	779,172	△ 120,828	
広告料収入	800,000	634,200	△ 165,800	
刊行物発行収入	14,000,000	11,622,000	△ 2,378,000	
専門医制度収入	16,000,000	18,790,000	2,790,000	
病理専門医部会収入	4,000,000	4,134,502	134,502	
講習会等収入	4,500,000	5,030,000	530,000	
賠償責任保険事務費収入	2,500,000	2,573,284	73,284	
4. 寄付金収入	0	30,440,500	30,440,500	
100周年記念事業寄付金収入	0	30,440,500	30,440,500	
5. 特定資産取崩収入	3,400,000	17,684,959	14,284,959	
学術医療振興基金取崩収入	3,400,000	3,440,000	40,000	

100周年記念事業引当預金 取崩収入	0	14,244,959	14,244,959	
6. 雑収入	4,400,000	7,611,874	3,211,874	
受取利息収入	400,000	69,601	△ 330,399	
雑収入	4,000,000	7,542,273	3,542,273	
当期収入合計 (A)	211,110,000	291,777,911	80,667,911	
前期繰越収支差額	45,481,000	67,020,211	18,013,620	
収入合計 (B)	256,591,000	358,798,122	98,681,531	

(単位 円)

科 目	予算額	決算額	差 異	備 考
II. 支出の部				
1. 事業支出	166,500,000	196,638,461	30,138,461	
学術集会経費	89,500,000	109,666,992	20,166,992	
学会誌発行経費	15,000,000	16,626,105	1,626,105	
会報・お知らせ発行経費	3,000,000	1,498,310	△ 1,501,690	
剖検報刊行経費	11,000,000	10,095,514	△ 904,486	
専門医制度運営経費	9,000,000	10,652,687	1,652,687	
病理専門医部会経費	8,000,000	9,257,890	1,257,890	
支部運営経費	6,500,000	6,500,000	0	
学術奨励等経費	3,500,000	3,572,673	72,673	
講習会等経費	4,500,000	4,758,784	258,784	
各種委員会経費	3,500,000	4,102,949	602,949	
事業人件費	8,000,000	5,700,738	△ 2,299,262	
租税公課	5,000,000	0	△ 5,000,000	管理費で支出
病理情報ネットワーク センター設立経費	0	9,717,000	9,717,000	
100周年記念誌刊行経費	0	4,200,000	4,200,000	
100周年記念事業経費	0	288,819	288,819	
2. 管理費	28,530,000	33,228,498	4,698,498	
人件費	10,000,000	11,806,845	1,806,845	
福利厚生費	2,500,000	2,814,853	314,853	
交通費	400,000	683,080	283,080	
通信運搬費	3,000,000	1,366,034	△ 1,633,966	
会議費	2,000,000	2,488,261	488,261	
印刷費	2,500,000	1,831,077	△ 668,923	
備品費	200,000	0	△ 200,000	
消耗品費	500,000	544,743	44,743	
光熱費	230,000	235,175	5,175	
賃借料	2,700,000	3,877,551	1,177,551	
諸会費	900,000	400,000	△ 500,000	
補助金	0	0	0	
修繕費	100,000	0	△ 100,000	
嘱託料	2,500,000	2,591,100	91,100	
租税公課（消費税等） （法人税等）	500,000	859,500	359,500	
	0	3,033,800	3,033,800	予算を事業費 で計上
雑費	500,000	696,479	196,479	
3. 特定預金支出	4,600,000	36,370,972	31,773,186	
退職給付引当預金取得支出	1,600,000	1,600,000	0	
学術医療振興基金取得支出	3,000,000	4,324,658	1,324,658	
国際交流基金取得支出	0	5,814	8,028	
100周年記念事業引当				

預金取得支出	0	30,440,500	30,440,500
4. 予備費	3,000,000	0	△ 3,000,000
当期支出合計 (C)	202,630,000	266,237,931	63,610,145
当期収支差額 (A-C)	8,480,000	25,539,980	17,057,766
次期繰越収支差額 (B-C)	53,961,000	92,560,191	35,071,386

2) 貸借対照表

平成 23 年 3 月 31 日現在

(単位 円)

科 目	金 額		
I. 資産の部			
1. 流動資産			
現金・預金	111,643,027		
前 払 金	201,243		
未 収 金	408,855		
流動資産合計		112,253,125	
2. 固定資産			
基本財産			
基本財産	30,000,000		
基本財産合計	30,000,000		
その他の固定資産			
特定資産			
学術医療振興基金	99,875,176		
100周年記念事業引当預金	39,855,651		
国際交流基金	20,139,644		
退職給付引当預金	19,100,000		
特定資産合計	178,970,471		
什器備品	84,957		
保証金	930,000		
その他固定資産合計	179,985,428		
固定資産合計		209,985,428	
資産合計			322,238,553
II. 負債の部			
1. 流動負債			
前受金	1,770,000		
未払金	13,106,284		
預り金	4,816,650		
流動負債合計		19,692,934	
2. 固定負債			
退職給付引当金	19,100,000		
固定負債合計		19,100,000	
負債合計			38,792,934
III. 正味財産の部			
正味財産			283,445,619
(うち基本金)			(30,000,000)
(うち正味財産当期増加額)			(42,625,993)
負債及び正味財産合計			322,238,553

3) 正味財産増減計算書

平成 22 年 4 月 1 日から平成 23 年 3 月 31 日まで

(単位 円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 基本財産運用益	9,248	12,019	△ 2,771
基本財産受取利息	9,248	12,019	△ 2,771
② 受取会費	85,316,000	74,692,000	10,624,000
学術評議員会費	36,898,000	29,212,000	7,686,000
一般会員等会費	34,558,000	33,408,000	1,150,000
病理専門医部会費	13,860,000	12,072,000	1,788,000
③ 事業収益	150,715,330	135,440,483	15,274,847
学術集会収入	107,152,172	94,330,511	12,821,661
論文掲載料収入	779,172	1,160,828	△ 381,656
広告料収入	634,200	936,600	△ 302,400
刊行物発行収入	15,756,502	16,124,013	△ 367,511
専門医制度収入	18,790,000	15,942,000	2,848,000
講習会等収入	5,030,000	4,421,000	609,000
賠償保険事務費収入	2,573,284	2,525,531	47,753
④ 受取寄付金	30,440,500	3,680,000	26,760,500
100周年記念事業寄付金収入	30,440,500	3,680,000	26,760,500
⑤ 雑収入	7,611,874	4,732,353	2,879,521
受取利息	69,601	110,923	△ 41,322
著作権協会分配金	40,740	899,200	△ 858,460
科学技術振興事業団	112,031	542,640	△ 430,609
PatholInt ロイヤリティ	0	2,510,240	△ 2,510,240
医中雑刊著作権使用料	0	25,620	△ 25,620
刊行物編集協力金	1,028,160	621,240	406,920
雑収入	6,361,342	22,490	6,338,852
経常収益計	274,092,952	218,556,855	55,536,097
(2) 経常費用			
① 事業費			
学術集会費	109,666,992	93,061,189	16,605,803
学会誌発行費	16,626,105	27,317,770	△ 10,691,665
会報発行費	1,498,310	2,948,400	△ 1,450,090
剖検輯報発行費	10,095,514	10,921,737	△ 826,223
専門医制度運営費	10,652,687	10,008,963	643,724
病理専門医部会費	9,257,890	8,429,997	827,893
支部運営費	6,500,000	6,500,000	0
学術奨励等費	3,572,673	3,174,705	397,968
講習会等経費	4,758,784	3,406,101	1,352,683
各種委員会費	4,102,949	4,350,703	△ 247,754
事業人件費	5,700,738	5,828,014	△ 127,276
病理情報ネットワークセンター設立	9,717,000	0	9,717,000
100周年記念誌刊行経費	4,200,000	0	4,200,000
100周年記念事業経費	288,819	0	288,819
事業費計	196,638,461	175,947,579	20,690,882
② 管理費			
人件費	11,806,845	8,464,998	3,341,847
退職給付引当金繰入	1,600,000	1,600,000	0
福利厚生費	2,814,853	2,145,720	669,133
交通費	683,080	270,000	413,080
通信運搬費	1,366,034	2,776,736	△ 1,410,702
会議費	2,488,261	1,658,312	829,949

印刷費	1,831,077	1,963,105	△ 132,028
消耗品費	544,743	255,483	289,260
光熱水道費	235,175	241,254	△ 6,079
賃借料	3,877,551	3,958,243	△ 80,692
諸会費	400,000	900,000	△ 500,000
嘱託料	2,591,100	2,458,500	132,600
租税公課	3,893,300	7,035,517	△ 3,142,217
雑費	696,479	599,843	96,636
管理費計	34,828,498	34,327,711	500,787
経常費用計	231,466,959	210,275,290	21,191,669
当期経常増減額	42,625,993	8,281,565	34,344,428
2 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
税引前一般正味財産増減額	42,625,993	8,281,565	34,344,428
法人税、住民税及び事業税			0
当期一般正味財産増減額	42,625,993	8,281,565	34,344,428
一般正味財産期首残額	240,819,626	232,538,061	8,281,565
一般正味財産期末残額	283,445,619	240,819,626	42,625,993
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残額	0	0	0
指定正味財産期末残額	0	0	0
III 正味財産期末残高	283,445,619	240,819,626	42,625,993

4) 財産目録

平成 23 年 3 月 31 日現在

(単位 円)

科 目	金 額		
I. 資産の部			
1. 流動資産			
(1) 現金・預金			
現金 現金手許有高	459,641		
普通預金 みずほ銀行本郷支店	8,581,594		
普通預金 みずほ銀行本郷支店	14,076,378		
普通預金 みずほ銀行本郷支店	37,306,339		
普通預金 みずほ銀行本郷支店	36,551,094		
普通預金 三菱東京 UFJ 銀行本郷支店	149,870		
普通預金 みずほ銀行本郷支店	929,309		
普通預金 みずほ銀行本郷支店	352,923		
普通預金 みずほ銀行本郷支店	12,179,361		
定期預金 みずほ銀行本郷支店	143,893		
郵便振替貯金	912,625		
現金・預金合計	111,643,027		
(2) 前払金			
家賃	195,300		
会費自動振替手数料	5,943		
前払金合計	201,243		
(3) 未収金			
学会誌発行収入等	408,855		
流動資産合計		112,253,125	
2. 固定資産			
(1) 基本財産			

基本財産	30,000,000		
(普通三菱東京 UFJ 銀行本郷支店)			
基本財産合計	30,000,000		
(2) その他の固定資産			
特定資産			
学術医療振興基金	99,875,176		
(普通三菱東京 UFJ 銀行春日町支店)			
100 周年記念事業引当預金	39,855,651		
(郵便振替貯金)			
国際交流基金	20,139,644		
(普通・りそな銀行本郷支店)			
退職給付引当預金	19,100,000		
特定資産合計	178,970,471		
什器備品	84,957		
保証金	930,000		
その他固定資産合計	179,985,428		
固定資産合計		209,985,428	
資産合計			322,238,553

科 目	金 額		
II. 負債の部			
1. 流動負債			
(1) 前受金			
平成 22 年度会費・部会費等	1,770,000		
(2) 未払金			
英文誌印刷費等	4,070,000		
日病会誌印刷費等	5,515,000		
会議費	93,984		
未払消費税等	400,000		
未払法人税等	3,027,300		
未払金合計	13,106,284		
(3) 預り金			
英文誌カラー印刷	4,666,000		
源泉所得税等	150,650		
預り金合計	4,816,650		
流動負債合計		19,692,934	
2. 固定負債			
(1) 退職給付引当金			
退職給付引当金	19,100,000		
固定負債合計		19,100,000	
負債合計			38,792,934
正味財産			283,445,619

◆会員数 (平成 23 年 7 月 31 日現在) :

正会員	3,801 名
(学術評議員	1,529 名)
(一般会員	2,272 名)
名誉会員	345 名
賛助会員	3 名
機関会員	84 名
計	4,233 名

◆役員一覧 (平成 23 年度) :

日本病理学会の役員は、以下のとおりである。
理事および監事 (任期: 平成 24 年 3 月 31 日まで)

理事長	青笹 克之
副理事長	向井 清
副理事長	寺田 信行
常任理事	上田真喜子
常任理事	佐藤 昇志
常任理事	深山 正久
理事	橋本 洋
理事	覚道 健一
理事	加藤 良平
理事	黒田 誠
理事	松原 修
理事	本山 悌一
理事	根本 則道
理事	岡田 保典
理事	笹野 公伸
理事	白石 泰三
理事	山口 朗
理事	安井 弥
理事	吉野 正
監事	真鍋 俊明

◆各種委員会委員名簿（平成年度 23 年 4 月現在）：

1. 企画委員会

向井 清（委員長）、深山正久、松原 修、本山悌一、岡田保典、笹野公伸、佐藤昇志、寺田信行、上田真喜子、福本 学、落合淳志

2. 広報委員会

岡田保典（委員長）、深山正久、黒田 誠、松原 修、向井 清、佐藤昇志、上田真喜子、山口 朗、安井 弥、藤井丈士、一宮慎吾、伊東恭子、宇於崎宏

2-2. 市民公開講座検討委員会

吉野 正（委員長）、岡田保典、降幡睦夫、稲垣 宏、九嶋亮治、野々村昭孝、竹内賢吾、都築豊徳、横山繁生

3. 財務委員会

上田真喜子（委員長）、深山正久、松原 修、向井 清、岡田保典、佐藤昇志、寺田信行

4. 学術委員会

佐藤昇志（委員長）、深山正久、向井 清、岡田保典、笹野公伸、白石泰三、上田真喜子、山口 朗、安井 弥、張ヶ谷健一、金井弥栄、笠原正典、仲野 徹、小田義直、梶村春彦、当該年春期総会会長（佐藤昇志）、秋期特別総会会長（黒田 誠）

4-2. 学術奨励賞選考委員会

松原 修（委員長）、加藤良平、岡田保典、寺田信行、安井 弥、吉野 正、佐藤昇志（学術委員長）、本山悌一（教育委員長）、深山正久（病理専門医制度運営委員長）

4-3. サマーフェスト委員会

松原 修（委員長）、深山正久、藤盛孝博、福嶋敬宜、久

岡正典、平戸純子、本間慶一、真能正幸、阪本晴彦、牛久哲男、田丸淳一、南口早智子（顧問：真鍋俊明）

4-4. 病理診断講習会委員会

向井 清（委員長）、吉野 正、長谷川匡、廣瀬隆則、片岡憲章、三上芳喜、仁木利郎、坂元亨宇、渋谷和俊、鳥越俊彦

4-5. 支部選出学術委員会

白石泰三（委員長）、原 明、松川昭博、村田晋一、竹屋元裕、田村 元、立野正敏、螺良愛郎

4-6. 学術アドバイザー

浅田祐士郎、千葉英樹、降幡睦夫、林 良夫、北川昌伸、黒住昌史、松田道行、村垣泰光、内藤 眞、中島 孝、中村卓郎、中里洋一、落合淳志、小笠原一誠、佐々木功典、下川 功、梶村春彦、上出利光、（顧問：廣橋説雄）

5. 研究推進委員会

安井 弥（委員長）、加藤良平、佐藤昇志、池田栄二、戸田修二、樋野興夫、廣田誠一、中村栄男

6. 編集委員会

覚道健一（委員長）、根本則道、本山悌一、向井 清、岡田保典、佐藤昇志、上田真喜子、安井 弥、高橋雅英、向井万起男

6-2. Pathol Int 常任刊行委員会

高橋雅英（委員長）、藤本純一郎、福嶋敬宜、平戸純子、廣瀬隆則、石田 剛、城 謙輔、鬼島 宏、増田（梅村）しのぶ、森永正二郎、本山悌一、向井 清、中谷行雄、野口雅之、落合淳志、小田義直、大島孝一、岡田保典、小野栄夫、坂元亨宇、渋谷和俊、清水道生、堤 寛、都築豊徳、上田真喜子、横山繁生、吉野 正

6-3. 剖検情報委員会

根本則道（委員長）、藤原 恵、楠美嘉晃、高橋 学

6-4. 「診断病理」編集委員会

向井万起男（委員長）、布村眞季（副）、安田政実（副）、矢持淑子（副）、長谷川匡、鬼島 宏、内藤善哉、伊藤浩史、螺良愛郎、松川昭博、横山繁生（以上支部編集委員）

6-5. 癌取扱い規約委員会

向井万起男（委員長）、伊藤以知郎、清川貴子、松野吉宏、森井英一、寺本典弘、渡邊麗子、渡辺みか、坂元亨宇、落合淳志、中里洋一、森永正二郎、野口雅之、田中祐吉、白石泰三、中塚伸一、廣瀬隆則、小田義直

7. 病理専門医制度運営委員会

深山正久（委員長）、本山悌一、黒田 誠、根本則道、江石義信、川野 潔、小西 登、村田哲也、野口雅之、野鳥孝之、清水道生、田村浩一、向井万起男

7-2. 病理専門医試験委員会

野鳥孝之（委員長）、川野 潔、伊丹真紀子、伊藤智雄、津田 均、羽賀博典、中澤温子、都築豊徳

7-3. 病理専門医資格審査委員会

黒田 誠（委員長）、小西 登、林 一彦、上田善彦、山

城勝重, 北條 洋

7-4. 病理専門医施設審査委員会

村田哲也 (委員長), 村田哲也, 伊藤浩史, 中村直哉, 谷田部恭, 齊尾征直

7-5. 病理専門医部会報編集委員会

清水道生 (委員長), 堤 寛 (副), 望月 眞 (副), 佐藤昌明, 鬼島 宏, 上田善彦, 福岡順也, 大山秀樹, 串田吉生, 相島慎一

8. 医療業務委員会

根本則道 (委員長), 深山正久, 黒田 誠, 山口 朗, 廣川満良, 湊 宏, 大橋健一, 九島巳樹, 杉谷雅彦

8-2. コンサルテーション委員会

森谷卓也 (委員長), 今村好章, 泉 美貴, 黒瀬 顕, 大島孝一, 八尾隆史

8-3. 社会保険委員会

稲山嘉明 (委員長), 根本則道, 金城 満, 小西英一, 大倉康男, 佐々木毅, 島村和男, 若狭朋子, 渡邊一男, (顧問: 長村義之)

8-4. 病理診断体制専門委員会

佐々木毅 (委員長), 黒田 誠, 根本則道, 相島慎一, 羽山忠良, 岩佐葉子, 岸川正大, 三代川齊之, 大城真理子, 谷山清己, 辻本正彦, 安田政実, (顧問: 原 正道, 水口國雄)

8-5. 精度管理委員会

鬼島 宏 (委員長), 秋山 太, 羽場礼次, 林徳眞吉, 加藤哲子, 木佐貫篤, 笹島ゆう子, 和田 了, 柳澤昭夫

8-6. 剖検・病理技術委員会

柳井広之 (委員長), 遠藤希之, 亀井敏昭, 河原邦光, 松岡健太郎, 長尾俊孝, 長坂徹郎, 庄盛浩平

9. 口腔病理専門医制度運営委員会

山口 朗 (委員長), 黒田 誠, 出雲俊之, 豊澤 悟, 前田初彦, 原田博史, 仙波伊知郎, 田中陽一

9-2. 口腔病理専門医試験委員会

豊澤 悟 (委員長), 仙波伊知郎, 田中陽一, 原田博史, 入江太朗

9-3. 口腔病理専門医資格審査委員会

仙波伊知郎 (委員長), 原田博史

10. 教育委員会

本山悌一 (委員長), 白石泰三, 吉野 正, 長嶋洋治, 長沼 廣, 谷本昭英, 外丸詩野, 横崎 宏

11. 国際交流委員会

笹野公伸 (委員長), 松原 修, 森谷鈴子, 鈴木 貴, 横井豊治, 米澤 傑, 阿部佳子

12. 支部委員会

橋本 洋 (委員長), 佐藤昇志, 本山悌一, 加藤良平, 白石泰三, 寺田信行, 吉野 正

13. 倫理委員会

井藤久雄 (委員長), 本山悌一, 伏木信次, 伊藤雅文, 武村民子, 田中伸哉, 吉見直己, 増井 徹 (外部委員), 中島みち (外部委員), 宇都木伸 (外部委員)

14. リスクマネジメント委員会

井内康輝 (委員長), 佐々木功典, 堤 寛, 児玉安司 (外部委員)

15. 死因究明委員会

黒田 誠 (委員長), 藤田眞幸, 江村 巖, 池田 洋, 森下由紀雄, 居石克夫, 高澤 豊

16. 人材育成委員会

橋本 洋 (委員長), 味岡洋一, 浅田祐士郎, 羽賀博典, 石川雄一, 佐々木素子, 佐々木なおみ, 植村芳子, 渡辺みか, 加藤良平, 豊國伸哉

16-2. 若手医師確保に関する委員会

豊國伸哉 (委員長), 樋口佳代子, 伊倉義弘, 今井田克己, 南條 博, 河野眞司, 茅野秀一, 西川祐司, 定平吉都, 鷹橋浩幸

16-3. 男女共同参画委員会

加藤良平 (委員長), 絹川典子, 久保田佳奈子, 増田友之, 鍋島一樹, 小野謙三, 坂井田紀子, 武島幸男

◇社団法人日本病理学会事務局: 菊川敦子, 大藪いづみ, 宮本いづみ, 井口令子

・住所: 〒113-0033 文京区本郷2-40-9

ニュー赤門ビル4階

・TEL: 03-5684-6886

・FAX: 03-5684-6936

・E-mail: jsp-admin@umin.ac.jp (事務局)

・E-mail: pin@blackwellpublishing.com (Pathology Int. 編集室)

・ホームページ: <http://jsp.umin.ac.jp/>

・郵便振替口座: 口座番号 00130-4-32817

加入者名 社団法人日本病理学会